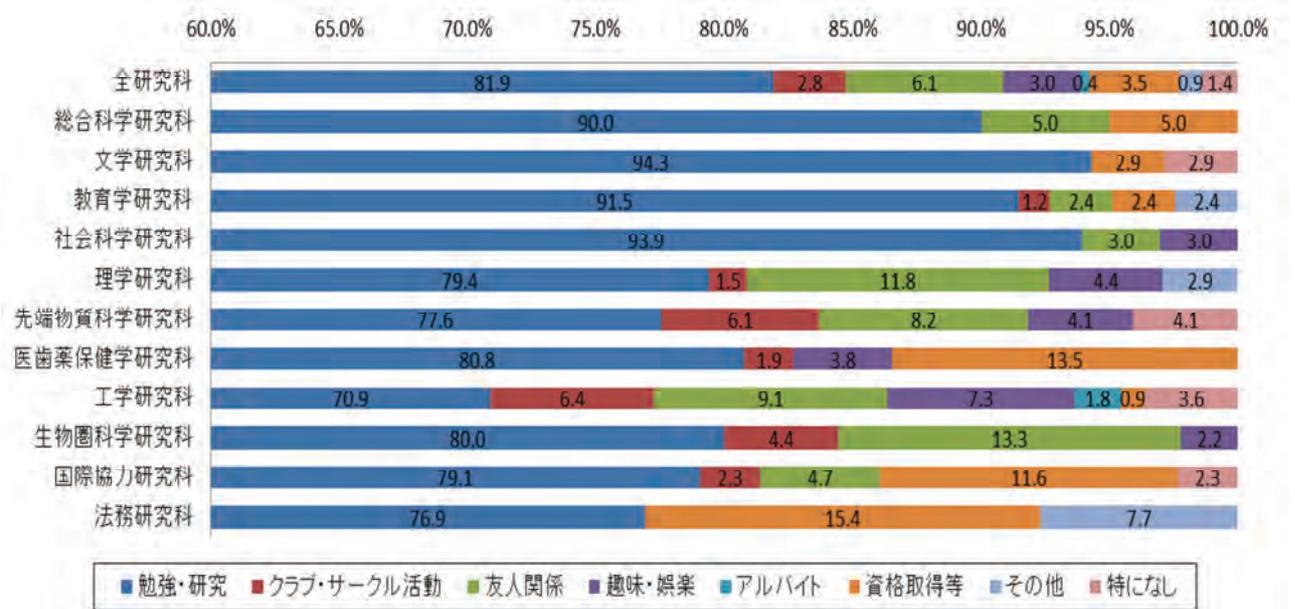


大学院

1 大学生活において大切にしているもの

設問1 大学生活において何を大切にしていますか。

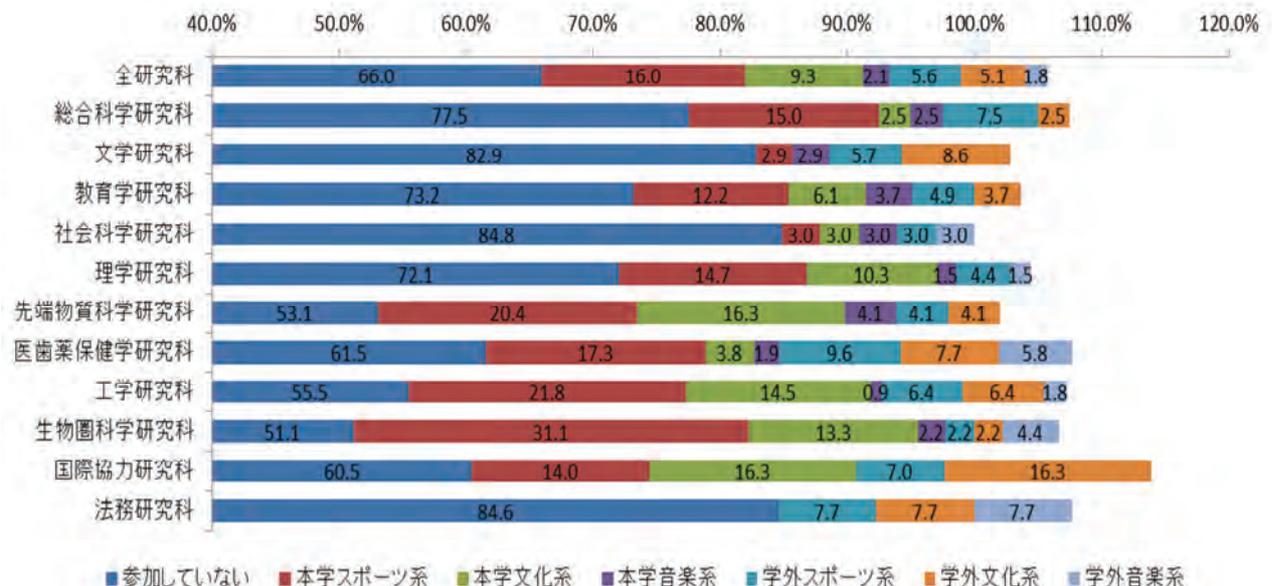
前回（H24）と同様、全体として8割以上の大学院生が「勉強・研究」（81.9%）を最優先と考えている。研究科別にみると、多くの研究科で「勉強・研究」を最優先に考える大学院生の割合が増えているが、医歯薬保健学研究科，工学研究科，国際協力研究科，法務研究科でその割合がやや減少している。その他，前回（H24）と比較して全体的に「クラブ・サークル活動」（2.8%），「友人関係」（6.1%），「資格取得等」（3.5%）の割合が微増している。 ※グラフの目盛りの最小値は60%



2 学内外のクラブ・サークル活動への参加

設問2 学内外のクラブやサークル活動に参加していますか。（複数回答可）

前回（H24）と同様、全体としてクラブやサークル活動に参加している大学院生は4割弱である。その中で、総合科学研究科や文学研究科，社会科学研究科，理学研究科などでは，前回と比較して参加率が増えている。また，全体として学外のクラブ・サークルでの活動が減少している。 ※グラフの目盛りの最小値は40%

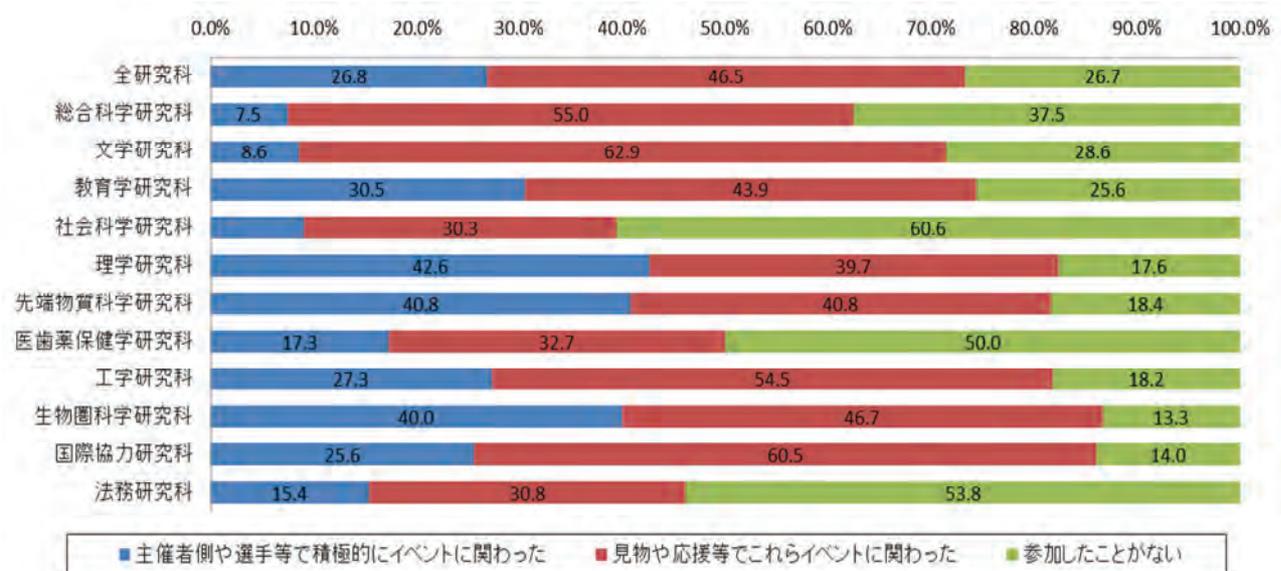


3 大学の行事への参加

設問3 大学祭、ゆかたまつり、フェニックス駅伝等の大学の行事に参加したことがありますか。

全体として大学行事への関心は高く、参加した経験を持つ大学院生は73.3%と前回（H24）を上回っている。特に、生物圏科学研究科や国際協力研究科で参加経験の割合が増えている。

参加形態でみると、前回（H24）より「見物や応援等でこれらのイベントに関わった」大学院生（46.5%）がわずかに増えており、総合科学研究科と文学研究科でその傾向が著しい。一方、教育学研究科は「主催者側や選手等で積極的にイベントに関わった」大学院生（30.5%）が倍増している。

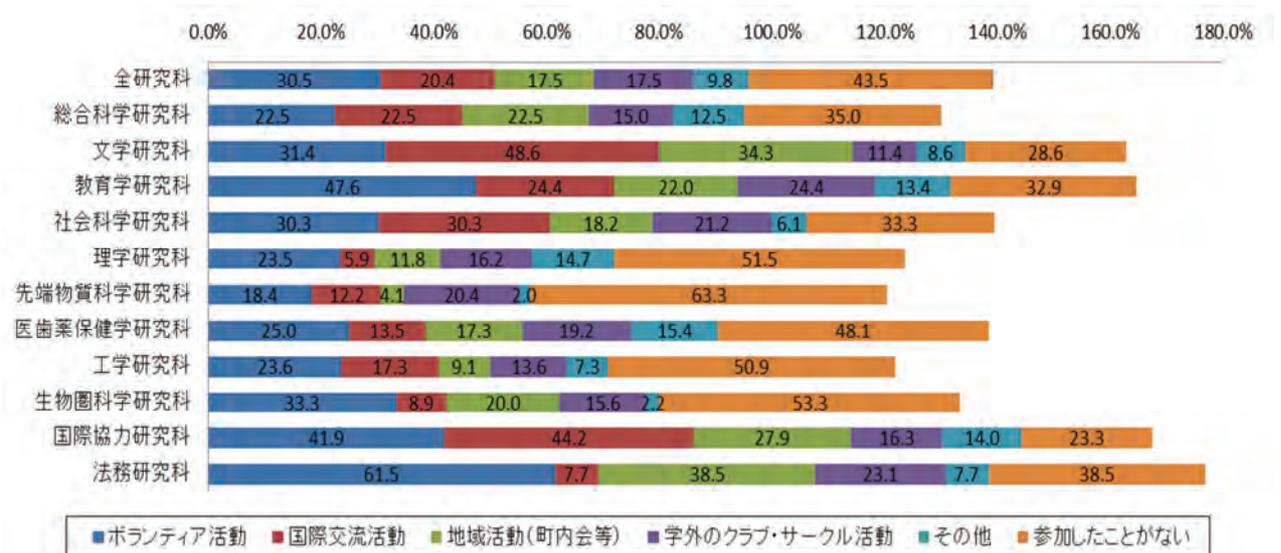


4 ボランティアや地域活動への参加

設問4 ボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか。（複数回答可）

全体として、ボランティア活動や地域の活動に参加した大学院生は、前回（H24）よりわずかに増えている。

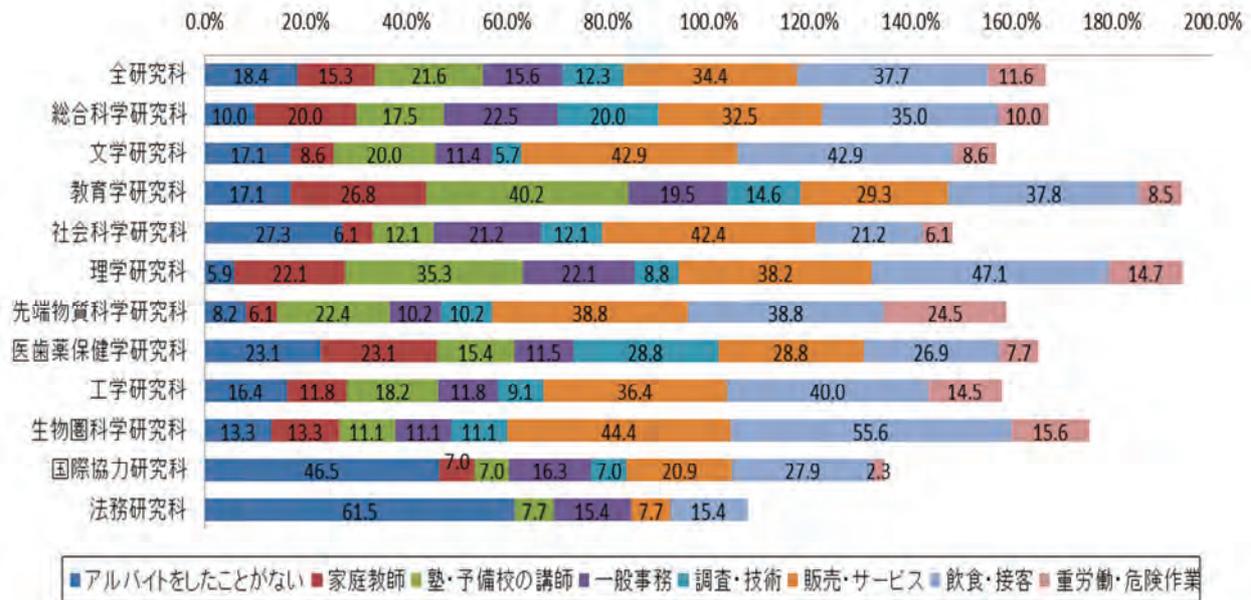
活動内容別にみると、「ボランティア活動」が前回（H24）より5ポイント程度増えている。特に、工学研究科や国際協力研究科、法務研究科でその傾向が著しい。「国際交流活動」も5研究科で増加しており、特に文学研究科では前回（H24）より大幅に増えている。



5 アルバイト

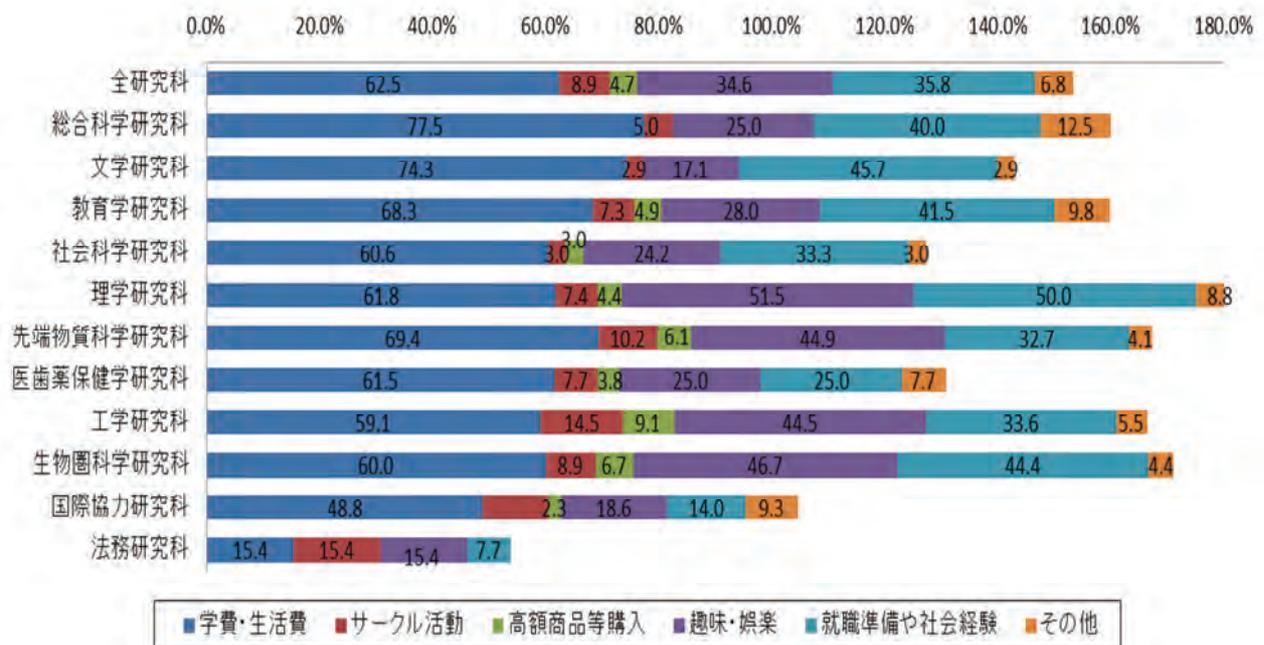
設問5 入学後何らかのアルバイトに就業したことがありますか。(複数回答可)

全体では8割を超える大学院生がアルバイトを経験している。職種は飲食・接客(37.7%)、販売・サービス(34.4%)、塾・予備校の講師(21.6%)が上位3職種である。この傾向は、学部生と同じである。アルバイト未経験者は1.6%微減。



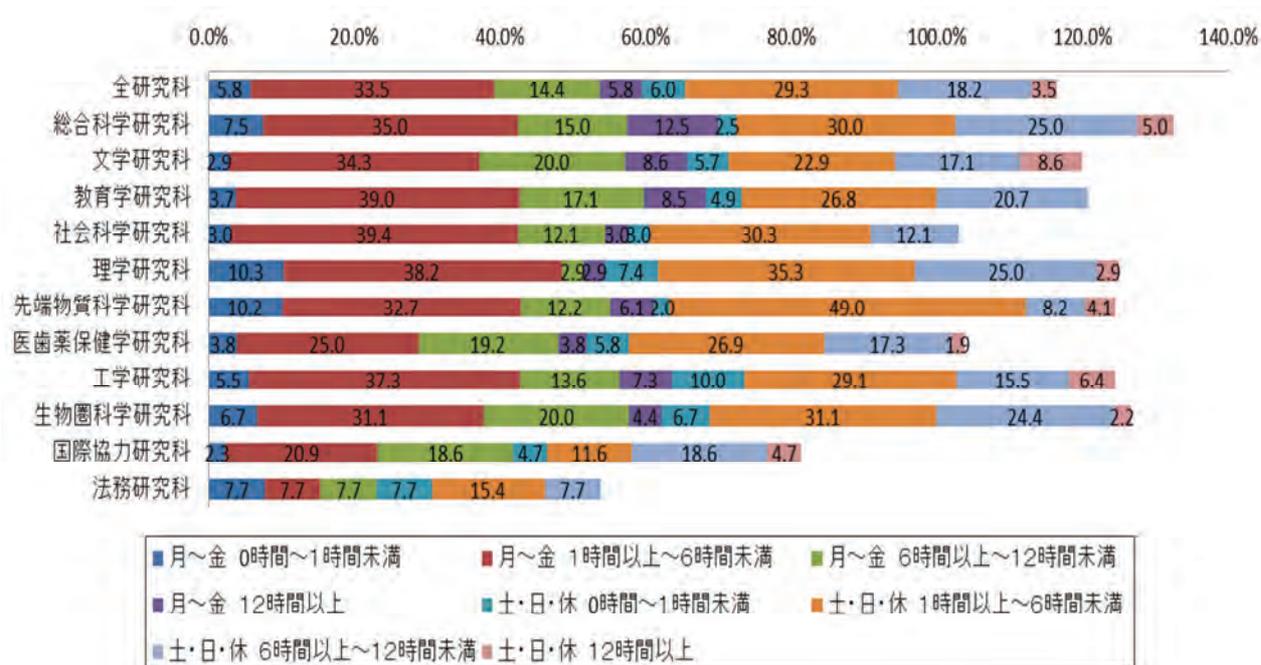
設問6 アルバイトの主な目的は何ですか。(複数回答可)

アルバイトの目的は、学費・生活費(62.5%)が最も多い。就職準備や社会経験(35.8%)が趣味・娯楽(34.6%)をわずかながら上回っており、この傾向は前回調査と同じである。大学院は在学期間が短く入学後早い時期に就職活動が始まることも影響しているのかもしれない。



設問7 アルバイトに充てている時間を「月曜から金曜」、「土曜 及び 日曜・休日」それぞれの中から一ずつ選択してください。

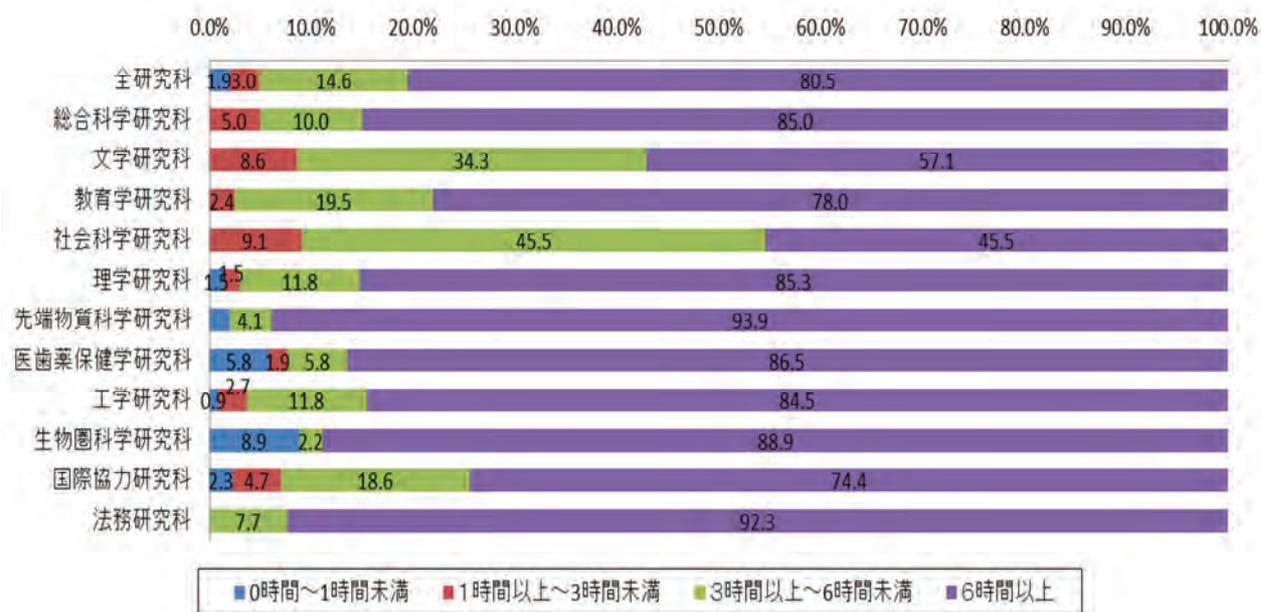
アルバイトに充てている時間は、「月曜から金曜の1時間以上6時間未満」(33.5%)、「土日休の1時間以上6時間未満」(29.3%)、「土日休の6時間以上12時間未満」(18.2%)の順に多い。



6 大学構内での滞在時間・場所について

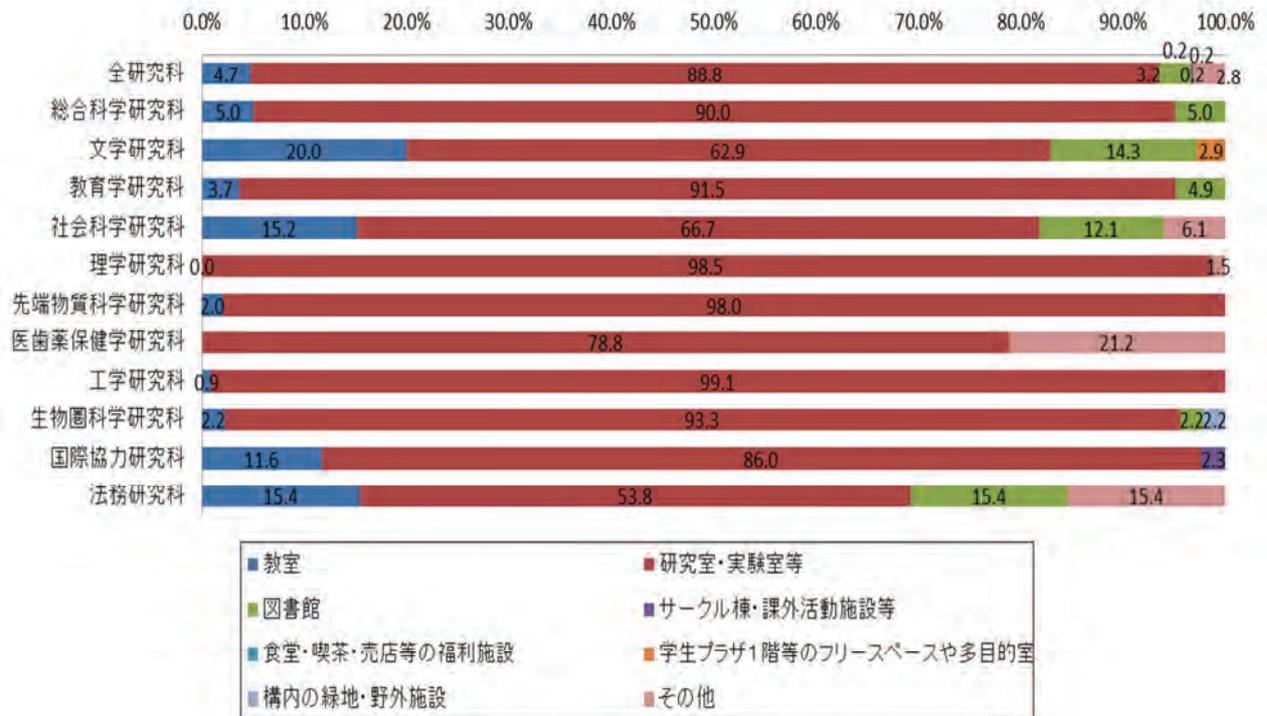
設問8 大学構内にどれくらいの時間滞在していますか。

全体で8割を超える(80.5%)大学院生が6時間以上滞在している。先端物質科学研究科, 法務研究科では9割以上が, また総合科学・理学・医歯薬保健学・工学・生物圏科学の各研究科においても8割以上の大学院生が, 大学に6時間以上滞在している。



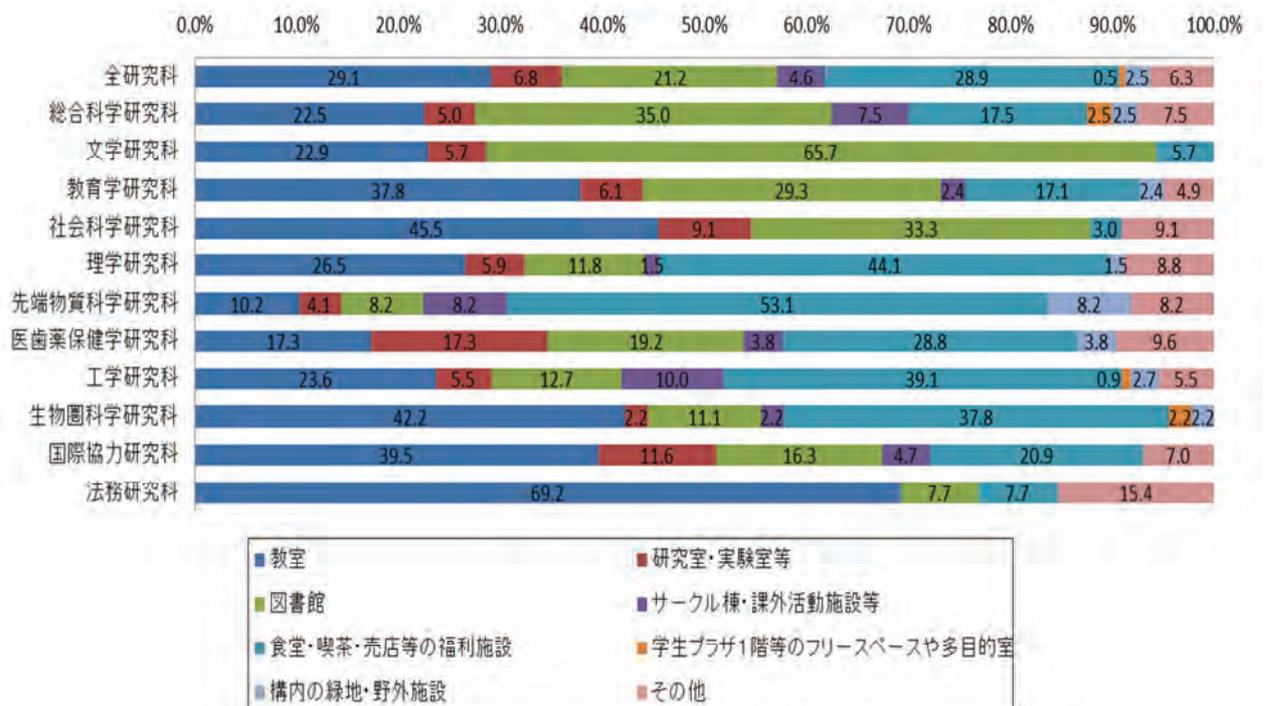
設問9 大学構内の滞在時間のうち、1番多く滞在している場所はどこですか。

全体的に、滞在時間の多くを過ごす場所は、研究室・実験室等(88.8%)である。法務研究科(53.8%)、文学研究科(62.9%)、社会科学研究科(66.7%)ではこの比率が低く、その分を教室や図書館などで過ごしている。



設問10 大学構内の滞在時間のうち、2番目に多く滞在している場所はどこですか。

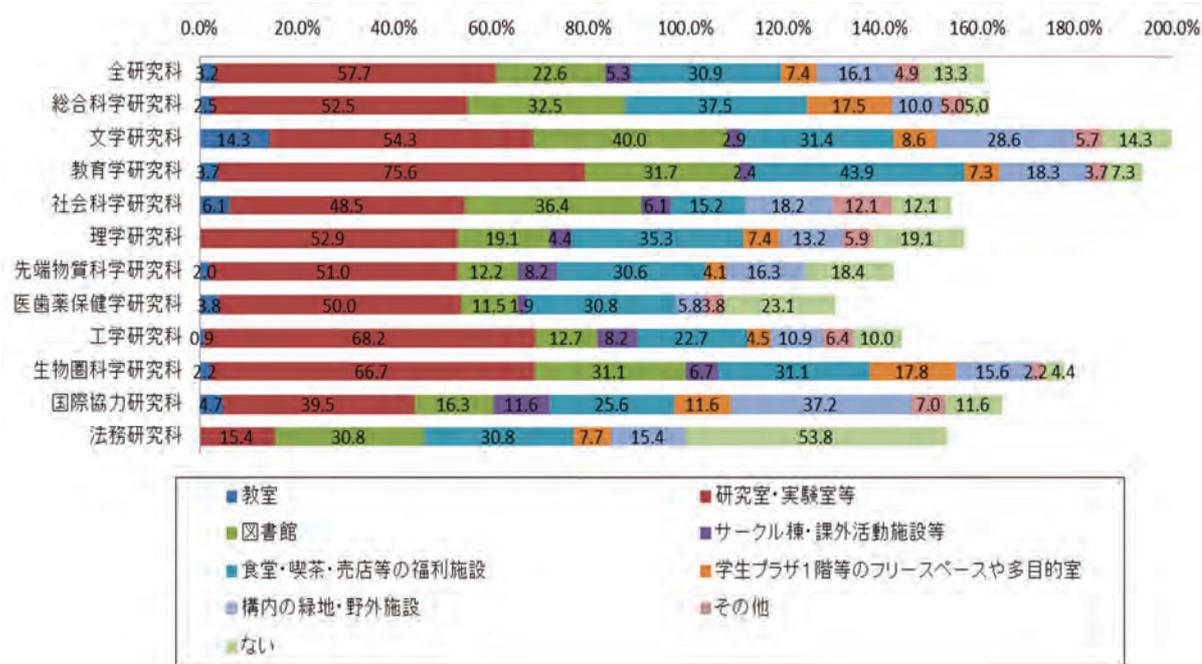
大学内で2番目に長く過ごしている場所は、全体では教室(29.1%)、食堂・喫茶・売店等の福利施設(28.9%)、図書館(21.2%)の順である。



7 大学構内でくつろいで過ごせる場所

設問 11 大学内にくつろいで過ごせる場所がありますか。(複数回答可)

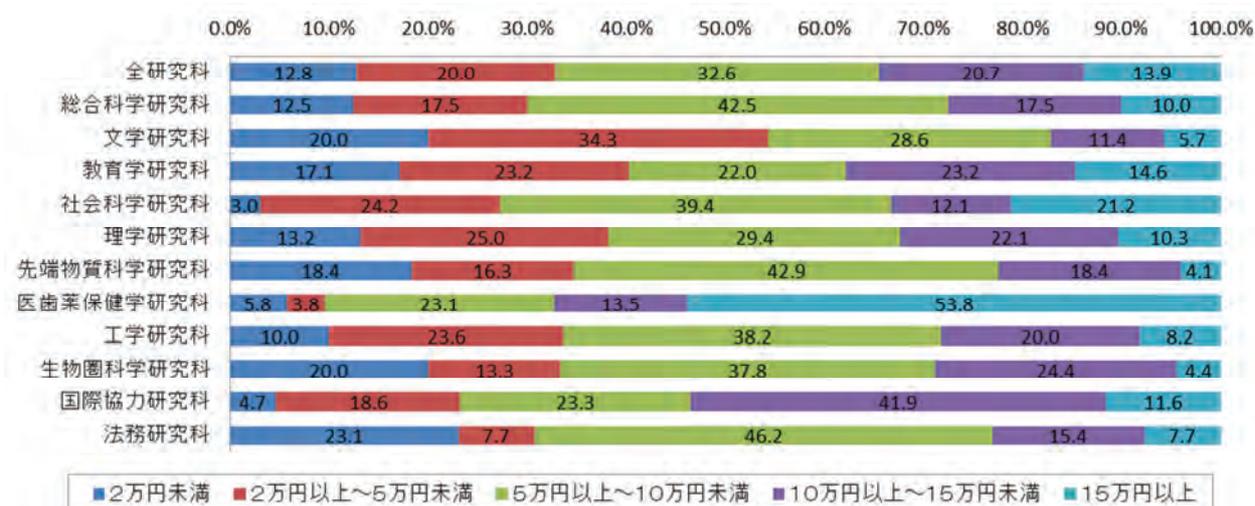
大学構内でくつろいで過ごせる場所は、全体では研究室・実験室（57.7%）、食堂・喫茶・売店等の福利施設（30.9%）、図書館（22.6%）の順であり、学部生に比べて研究室・実験室でくつろげるとの回答が多い。



8 1ヶ月の生計費（収入・支出）

設問 12 1ヶ月の収入はいくらですか。

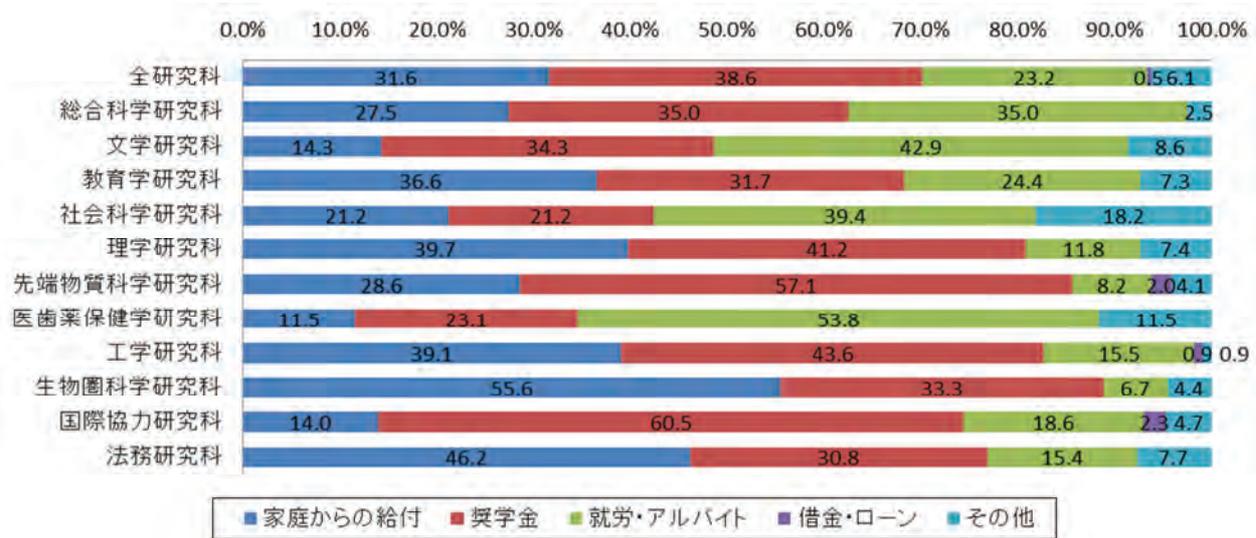
1ヶ月の生計費（収入）について、全研究科で見た場合、5万円以上～10万円未満が32.6%と最も多くなっている。これに次いで10万円以上～15万円以上（20.7%）、2万円以上～5万円未満（20.0%）、15万円以上（13.9%）、2万円未満（12.8%）の順となっている。0～5万円未満（2万円未満+2万円以上～5万円未満：今回調査からより詳細な生計費（収入）の把握ために選択肢が左記のように詳細化されている）の比率に注目し、過去二回の調査との比較を行うと、5万円未満の学生の比率が大幅に増加（前々回調査18.9%→前回調査20.2%→32.8%）してきていることがわかった。研究科別に見ると、法務研究科、文学研究科、生物圏科学研究科、教育学研究科などで2万円未満の比率が高くなるっている。



設問 13 1ヶ月の収入のうち、1番多い収入は、次のどれですか。

1ヶ月の生計費(収入)のうち1番目に多い収入について、全研究科で見た場合、奨学金(38.6%)が最も大きくなっている。次いで家庭からの給付(31.6%)、就労・アルバイト(23.2%)、その他(6.1%)、借金・ローン(0.5%)の順となっている。

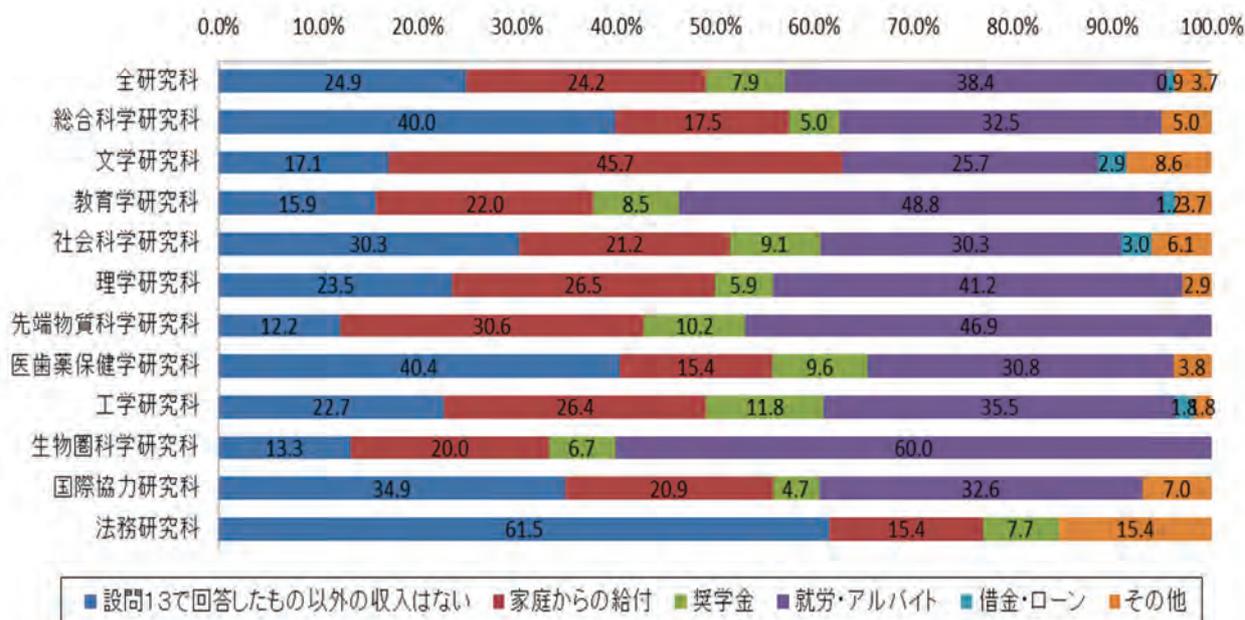
研究科別に見た場合、生物圏科学研究科、法務研究科で家庭給付の比率が4割を超えている一方で、奨学金の比率については、国際協力研究科、先端物質科学研究科で5割を超えている。就労・アルバイトの比率については、医歯薬保健科学研究科、文学研究科、社会科学研究科、総合科学研究科で3割を超えている。



設問 14 1ヶ月の収入のうち、2番目に多い収入は、次のどれですか。

1ヶ月の生計費(収入)のうち2番目に多い収入について、全研究科で見た場合、就労・アルバイト(38.4%)が最も大きくなっている。次いで「設問13で回答した以外の収入はない」(24.9%)、家庭給付(24.2%)、奨学金(7.9%)、その他(3.7%)、借金・ローン(0.9%)の順となっている。

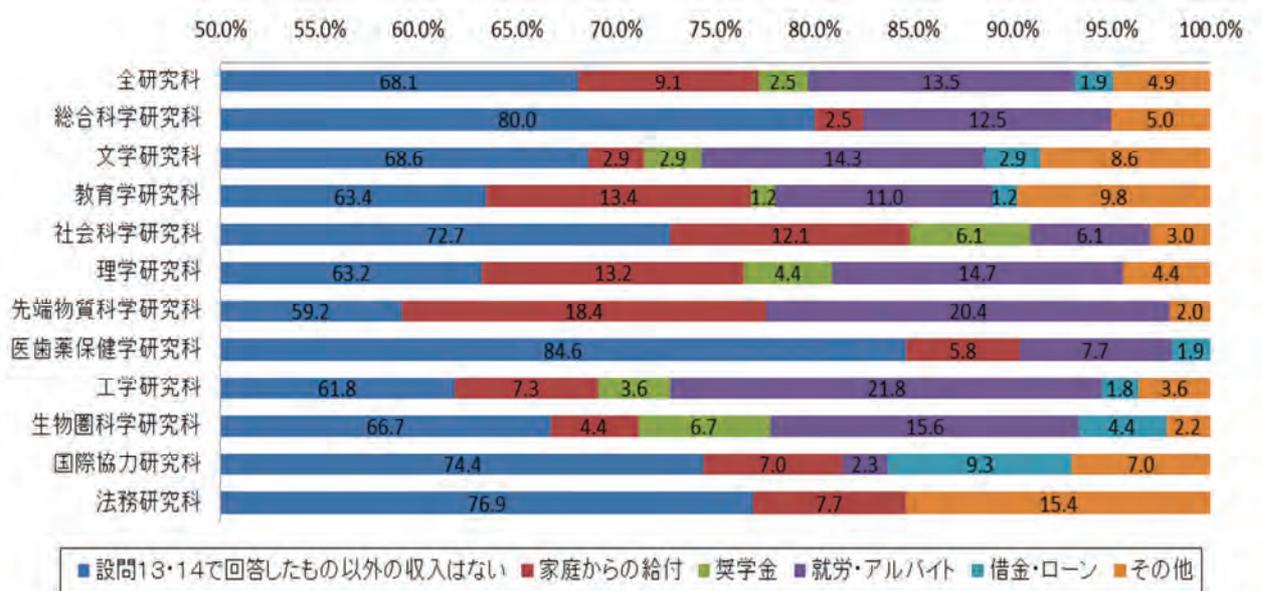
研究科別に見た場合、生物圏科学研究科で就労・アルバイトの比率が6割を超えている一方で、文学研究科は3割を下回っている。



設問 15 1ヶ月の収入のうち、3番目に多い収入は、次のどれですか。

1ヶ月の生計費（収入）のうち3番目に多い収入について、全研究科で見た場合、「設問13・14で回答した以外の収入はない」（68.1%）が最も大きくなっている。次いで就労・アルバイト（13.5%）、家庭給付（9.1%）、その他（4.9%）、奨学金（2.5%）、借金・ローン（1.9%）の順となっている。

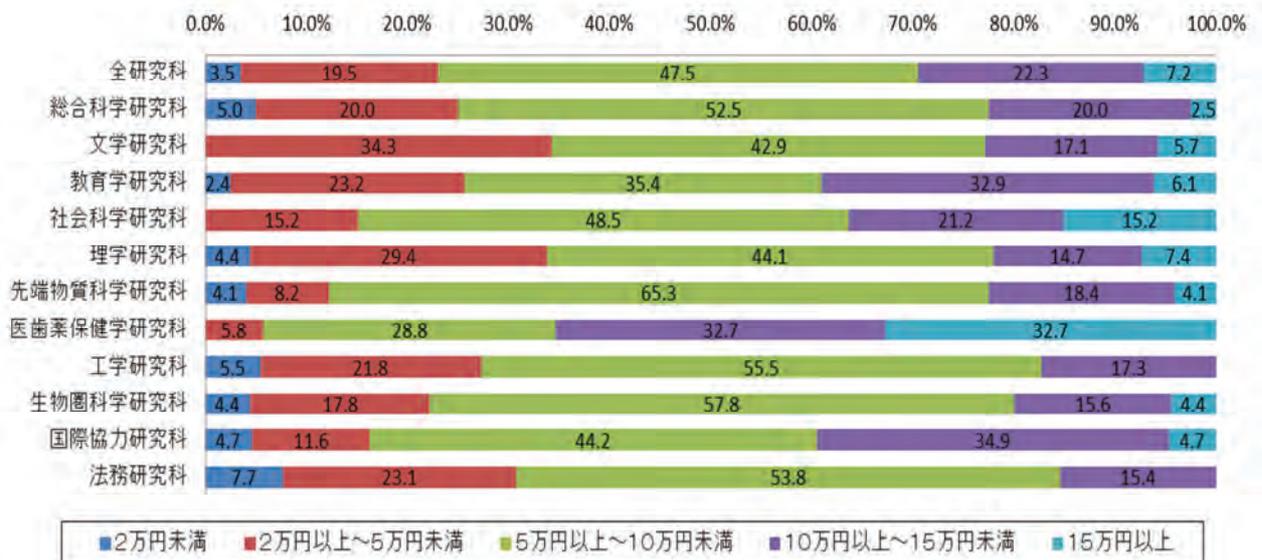
研究科別に見た場合、先端物質科学研究科以外いずれも「設問13・14で回答した以外の収入はない」が6割を超えている。 ※グラフの目盛りの最小値は50%



設問 16 1ヶ月の支出はいくらですか。

1ヶ月の生計費（支出）について、全研究科で見た場合、5万円以上～10万円未満（47.5%）が最も多くなっている。次いで10万円以上～15万円未満（22.3%）、2万円以上～5万円未満（19.5%）、15万円以上（7.2%）、2万円未満（3.5%）の順となっている。またこれまでの調査と比較して、5万円以上～10万円未満（前々回調査55.5%→前回調査53.5%→47.5%）の比率が減少し、5万円未満（2万円未満+2万円以上～5万円未満）の比率が高まっている（前々回調査18.9%→前回調査21.7%→23.0%）。結果として、生計費（支出）の減少が生じていることが明らかになった。

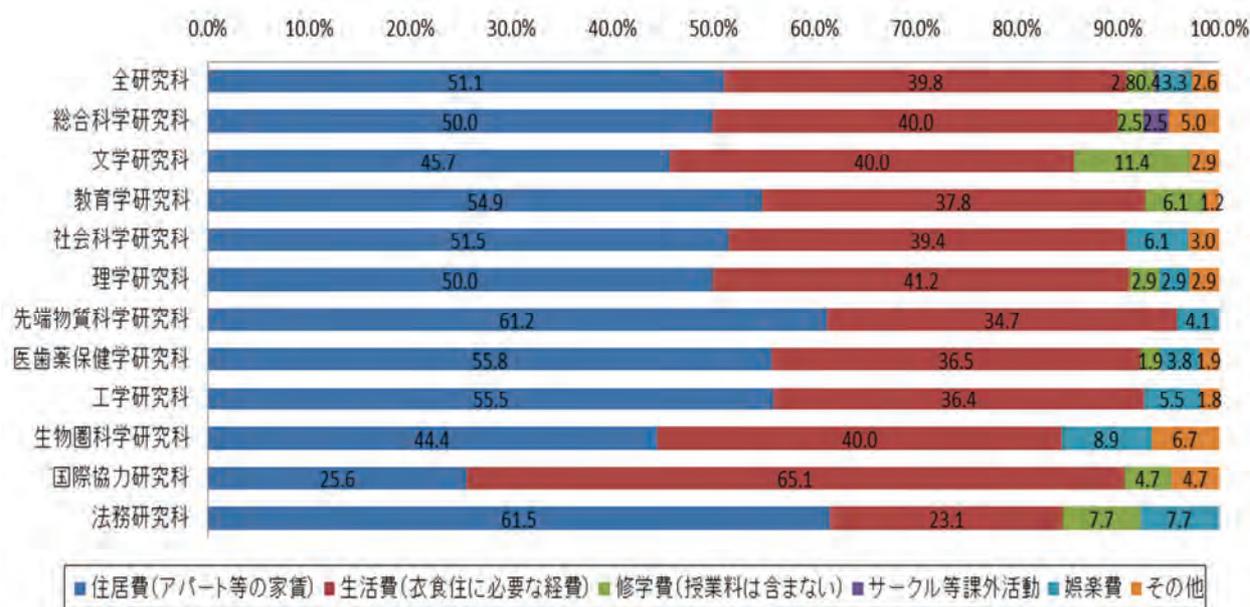
研究科別に見ると、5万円未満の比率が高い研究科としては、文学研究科・理学研究科・法務研究科などがあげられる。



設問 17 1ヶ月の支出のうち、1番多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

1ヶ月の生計費（支出）のうち、1番多く必要とする経費について、全研究科で見た場合、住居費（アパートの家賃）（51.1%）、生活費（衣食住に必要な経費）（39.8%）、娯楽費（3.3%）、修学費（2.8%）、その他（2.6%）、サークル等課外活動（0.4%）の順となる。

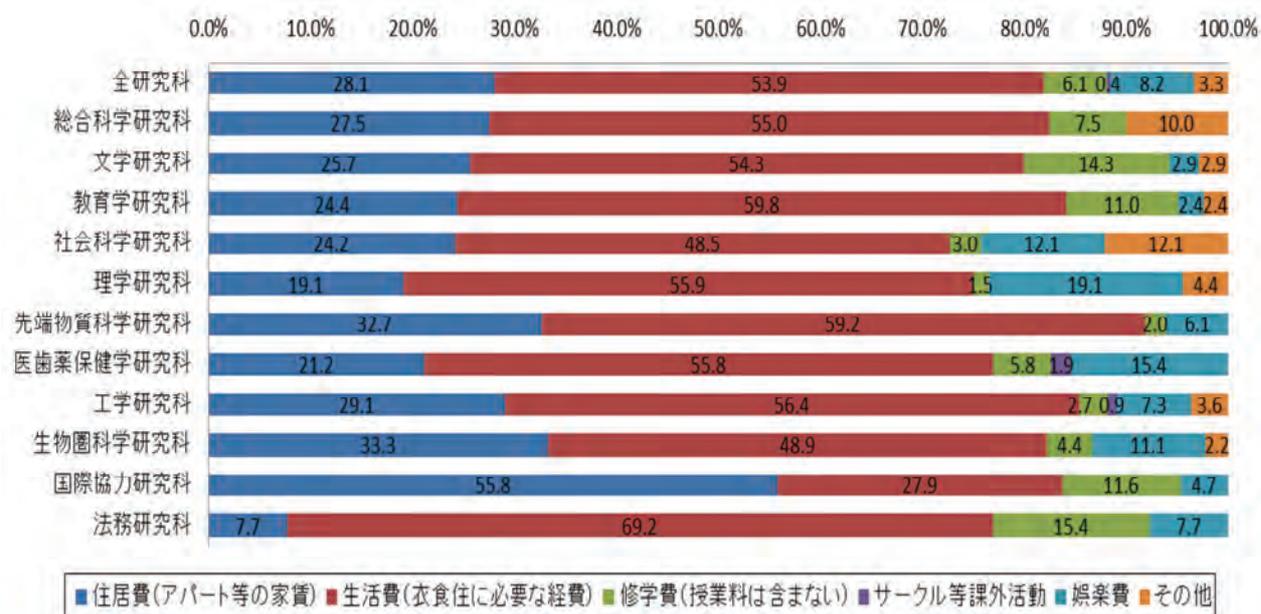
研究科別にみると、住居費の比率が法務研究科と先端物質科学研究科で6割を超えていることが分かる。



設問 18 1ヶ月の支出のうち、2番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

1ヶ月の生計費（支出）のうち、2番目に多く必要とする経費について、全研究科で見た場合、生活費（衣食住に必要な経費）（53.9%）、住居費（アパートの家賃）（28.1%）、娯楽費（8.2%）、修学費（6.1%）、その他（3.3%）、サークル等課外活動（0.4%）の順となる。

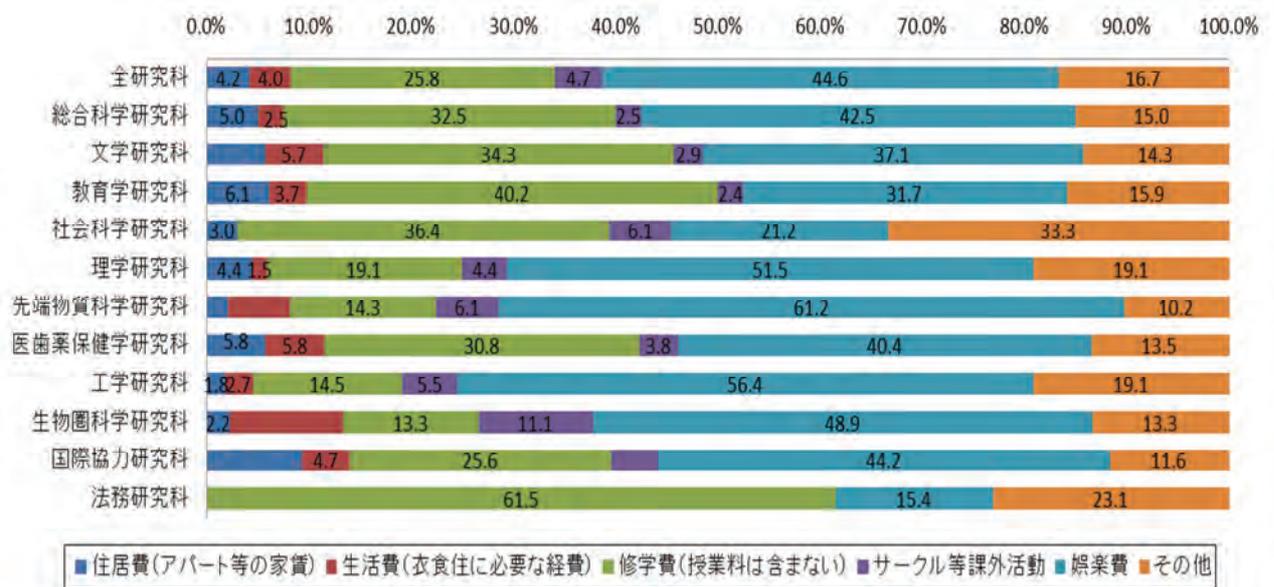
研究科別にみると、生活費と回答する比率が5割を超えている研究科がほとんどとなっている。



問 19 1ヶ月の支出のうち、3番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

1ヶ月の生計費（支出）のうち、3番目に多く必要とする経費について、全研究科で見た場合、娯楽費（44.6%）、修学費（25.8%）、その他（16.7%）などとなっている。

研究科別にみた場合でも、多くの研究科で娯楽費と回答する比率が4割を超える研究科が過半数となっている。

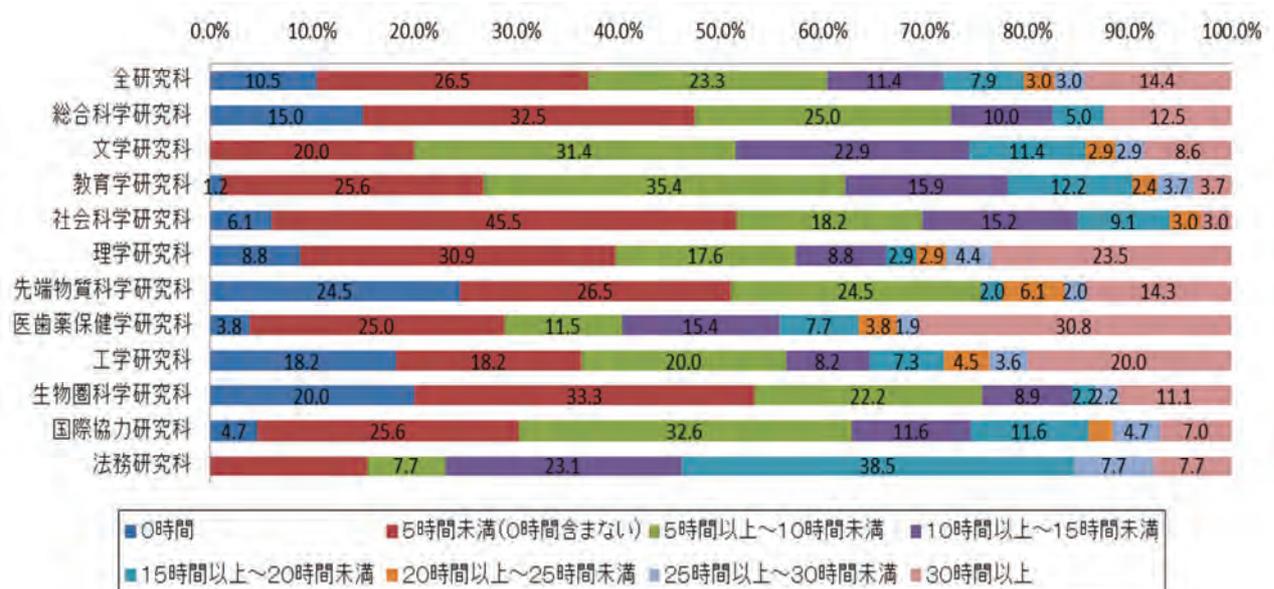


9 1週間の学習時間

設問 20 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）への出席にあてていますか。

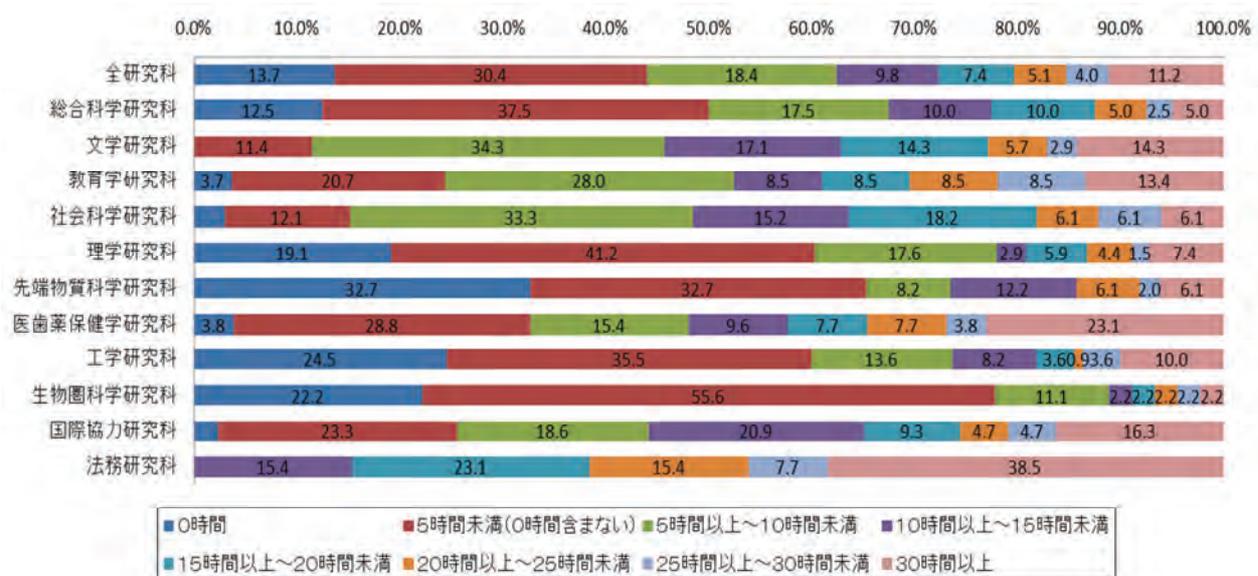
授業への出席にあてる1週間の平均時間を全研究科で見た場合、多い順に5時間未満（0時間含まない）26.5%、5時間以上～10時間未満23.3%、30時間以上14.4%、10時間以上～15時間未満が11.4%、0時間が10.5%などとなっている。

この傾向は研究科によって顕著に差が見られ、医歯薬保健学研究科、理学研究科、工学研究科などでは30時間以上が2割を超えている。その一方で、社会科学研究科、教育学研究科などでは30時間以上の比率は5%に満たない。



設問 21 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の課題、準備・復習などにあてていますか。

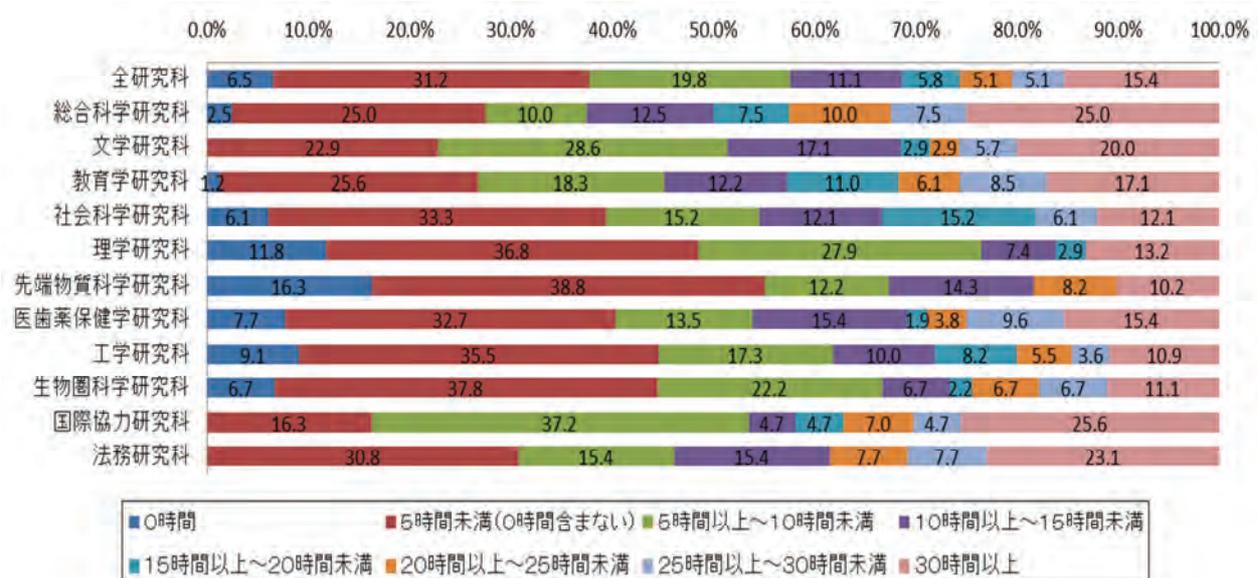
授業の予習・復習にあてる1週間の平均時間を全研究科で見た場合、多い順に5時間未満（0時間含まない）が30.4%、5時間以上～10時間未満が18.4%、0時間が13.7%、30時間以上が11.2%、10時間以上～15時間未満が9.8%などとなっている。この傾向は研究科によって大きな差がみられる。例えば、法務研究科では30時間以上が38.5%となっているし、医歯薬保健学研究科では23.1%となっている。その一方で、総合科学研究科や社会科学研究科、先端物質研究科では30時間以上と回答した学生の比率は、それぞれ5.0%、6.1%、6.1%となっている。



設問 22 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業とは関係のない自主的な学習にあてていますか。

授業とは関連のない自主的な学習について、1週間の平均時間を全研究科についてみた場合、多い順に5時間未満（0時間含まない）が最大で31.2%、次いで5時間以上～10時間未満が19.8%、30時間以上15.4%、10時間以上～15時間未満11.1%などとなっている。

この傾向を研究科別に30時間以上の自主的な学習に注目してみると、国際協力研究科、総合科学研究科、法務研究科、文学研究科などで20%を超えている。その一方で、先端物質研究科、工学研究科、生物圏科学研究科、社会科学研究科などで10%強にとどまっている。

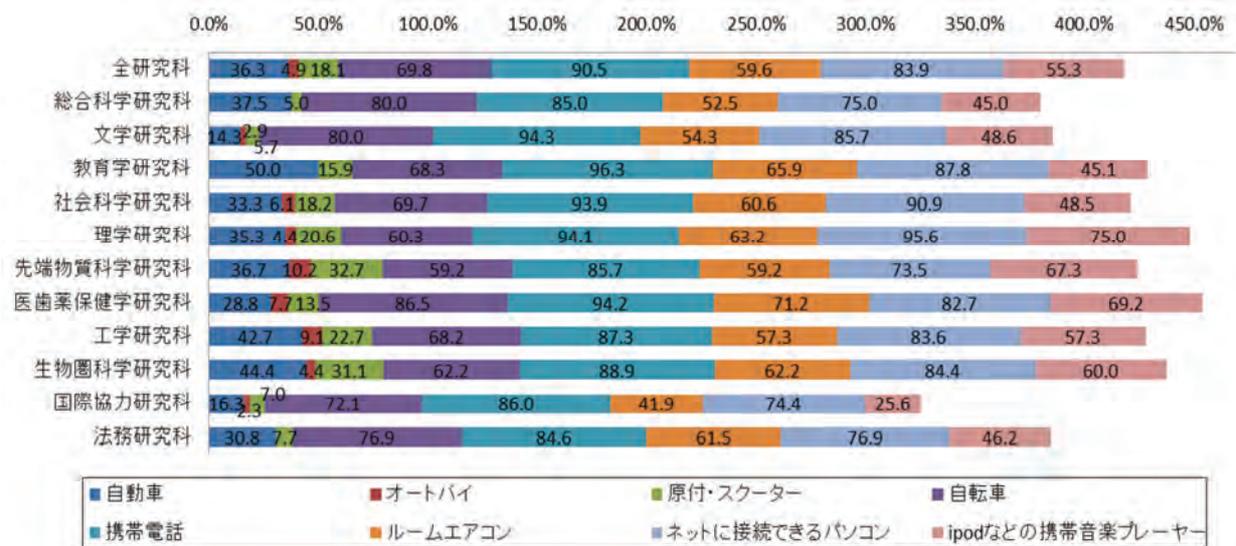


10 所有もしくは占有している物

設問 23 所有もしくは専用物がありますか。(複数回答可)

全体として、各所有もしくは専用物の所有率はわずかに減少しているが、ほぼ前回（H24）と同様の傾向にある。所有率をみると、移動手段では「自転車」(69.8%)、「自動車」(36.3%)、「原付・スクーター」(18.1%)などと続いている。「携帯電話」の所有率は前回（H24）と同様に最も高い割合(90.5%)を示し、「ネットに接続できるパソコン」(83.9%)などと続いている。

研究科別には、前回と同様に顕著な所有率の差は認められなかった。

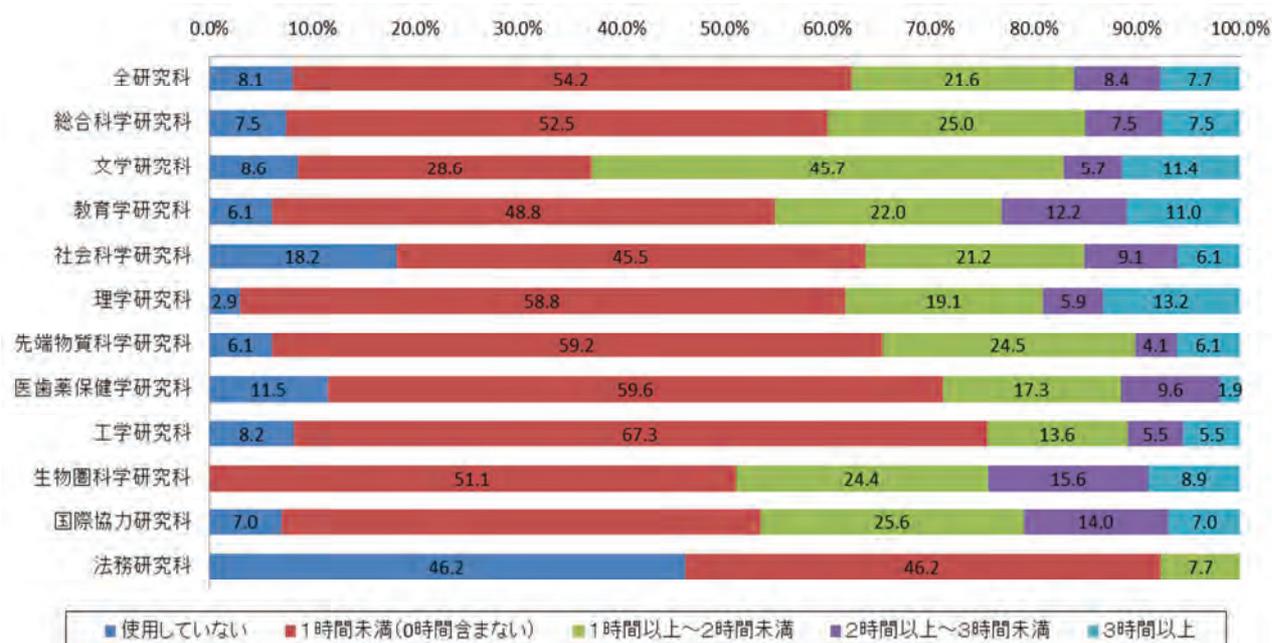


11 Social Network Service の使用状況について

設問 24 Facebook・LINE・Twitter 等の SNS(Social Network Service) を 1 日でどれくらいの時間使用していますか。

全体として、SNS を使用していない大学院生はわずか 8.1%であり、大部分の者がを使用した経験がみられた。使用時間では学部生と異なり、「1 時間未満」(54.2%)が最も多く、7 割以上が 2 時間以内の使用であり、「2 時間以上」は 16.1%であった。

研究科別にみると、社会科学研究科や法務研究科で「使用していない」の割合が高かった。

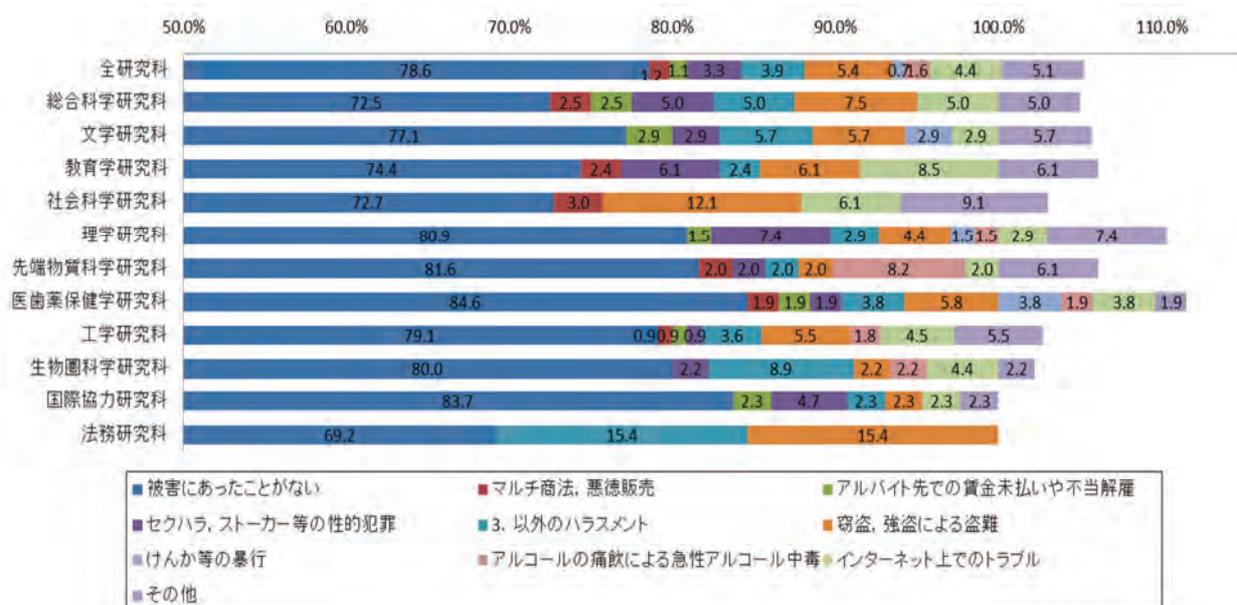


1.2 犯罪やトラブルなどの被害経験（複数回答可）

設問 25 学生生活において、何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験したことがありますか。

全体として、何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験した大学院生は 21.4%であり、前回（H24）よりもわずかに増えている。犯罪やトラブルを経験した者の割合が減少したのは理学研究科と生物圏科学研究科である。

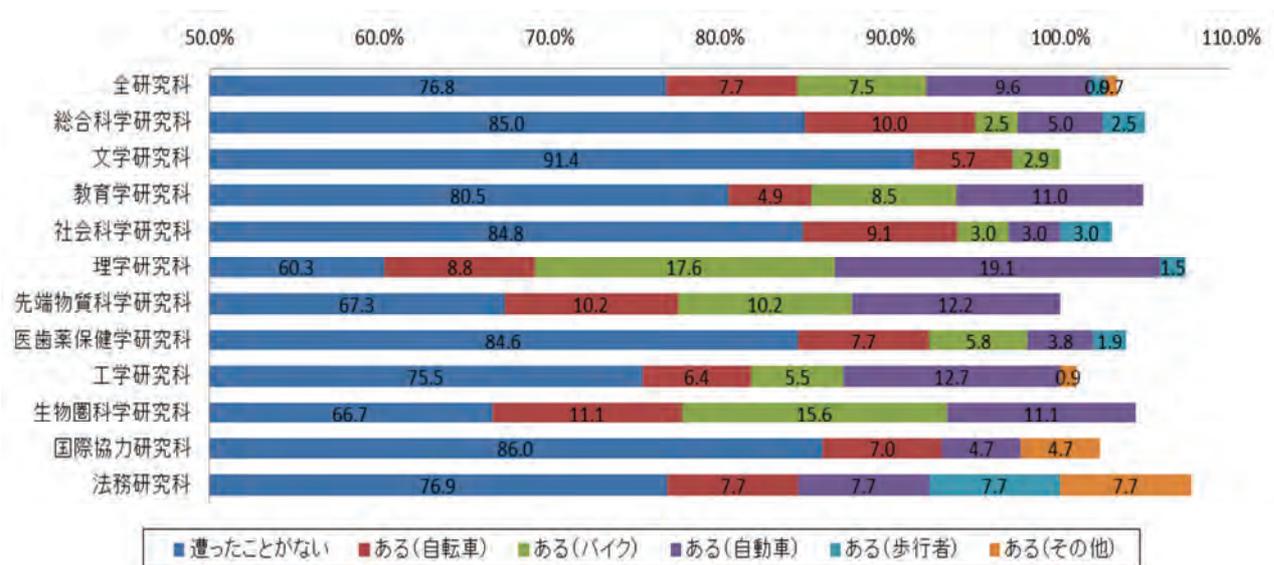
犯罪やトラブルの内容別にみると、前回（H24）多かった「窃盗、強盗による盗難」（5.4%）は今回も第 1 位である。次いで、「3. 以外のハラスメント」（3.9%）、「セクハラ、ストーカー等の性的犯罪」（3.3%）などと続いている。今回の調査で加えられた「インターネット上のトラブル」は 4.4%であった。 ※グラフの目盛りの最小値は 50%



1.3 交通事故の経験

設問 26 在学中交通事故に遭ったことがありますか。（複数回答可）

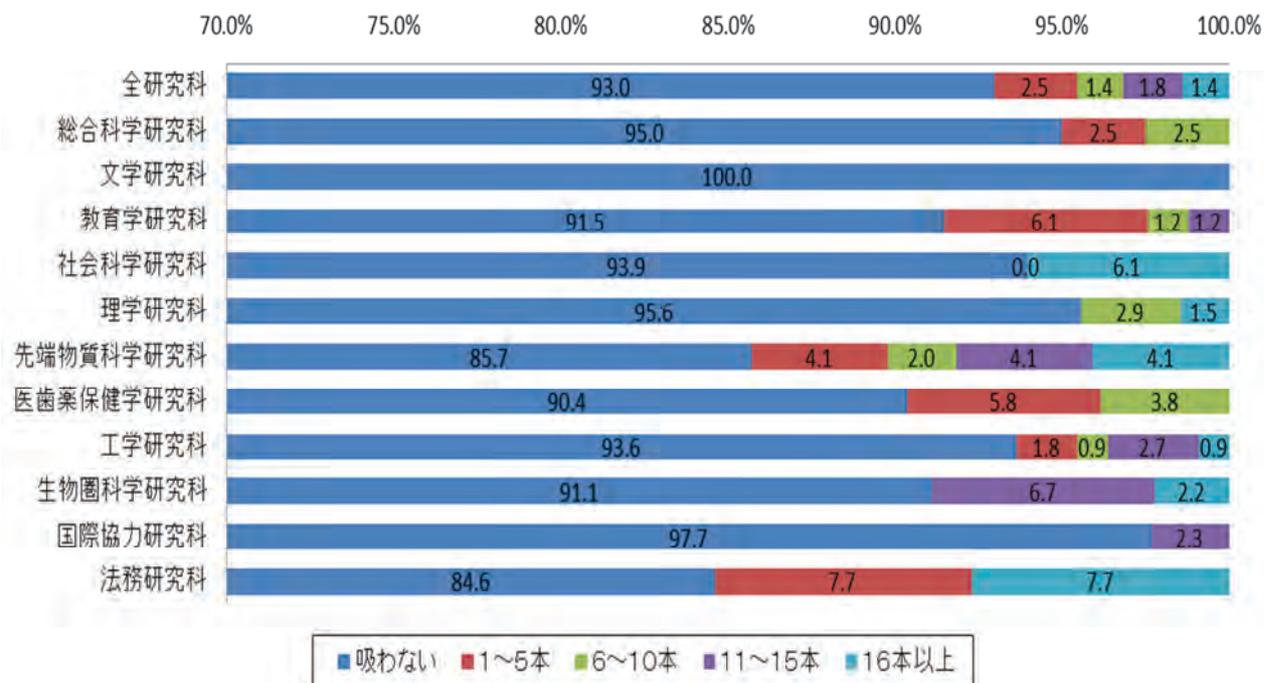
全研究科で在学中交通事故遭遇の内訳は、自転車事故 7.7%、バイク事故 7.5%、自動車事故 9.6%、歩行者事故 0.9%、その他 0.7%である。学部と比べて自動車事故の割合が高値であり、事故による重大損害も懸念されることから注意喚起を促したい。また、理学研究科、先端物質科学研究科、生物圏科学研究科においては交通事故の遭遇経験が高値である。 ※グラフの目盛りの最小値は 50%



1.4 喫煙及び飲酒の習慣

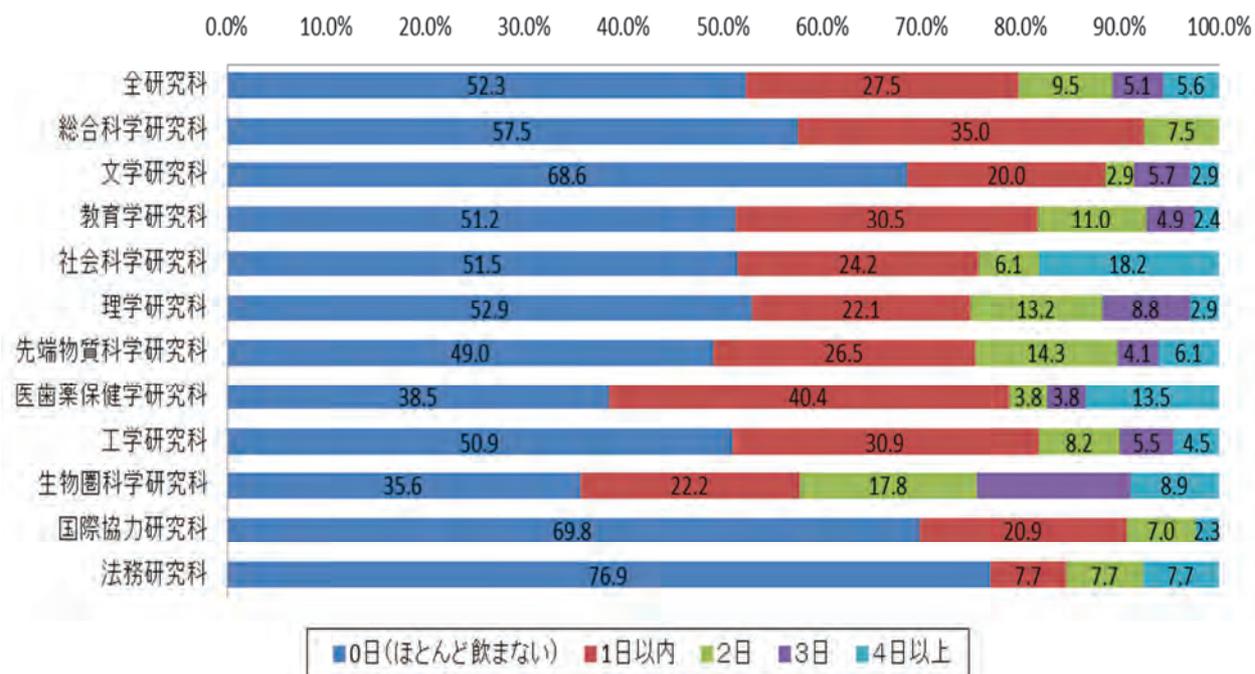
設問 27 喫煙の習慣がありますか。1日に吸う本数をお答えください。

現在習慣的に喫煙している者の割合は、7.0%であり、前回 10.8%に比べて減少している。1日に16本以上吸う者の割合は、1.4%であり、前回と変わっていない。※グラフの目盛りの最小値は70%



設問 28 飲酒の習慣がありますか。1週間に飲む日数をお答えください。

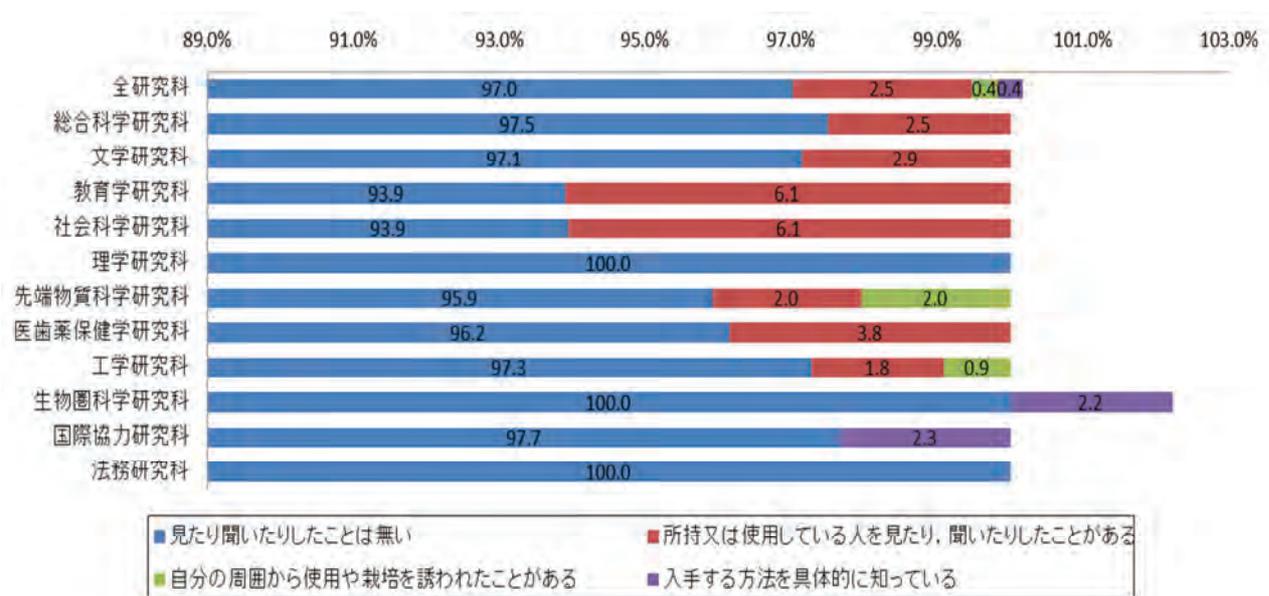
週3日以上飲酒習慣のある者の割合は、10.7%であり、前回と比べてその割合は変わらない。約半数は、飲酒の習慣はないと回答している。



15 薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について

設問 29 薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について、該当するものを選択してください。 （授業・研究目的のものは除く）（複数回答可）

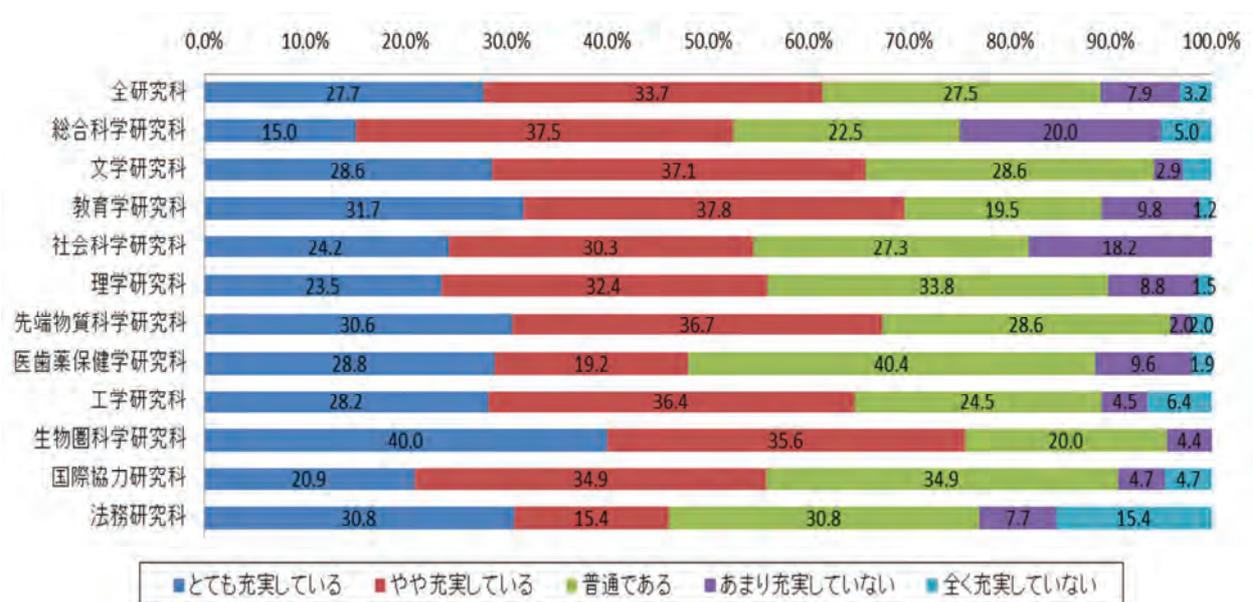
薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について、97.0%が見たり聞いたりしたことはないと回答しており、前回97.6%と同様の結果であった。しかし、「所持又は使用している人を見たり聞いたりしたことがある者」2.5%、「自分の周囲から使用や栽培を誘われたことがある者」も0.4%存在する。 ※グラフの目盛りの最小値は89%



16 授業以外の学生生活の充実度

設問 30 授業以外の学生生活を充実して過ごしていますか。

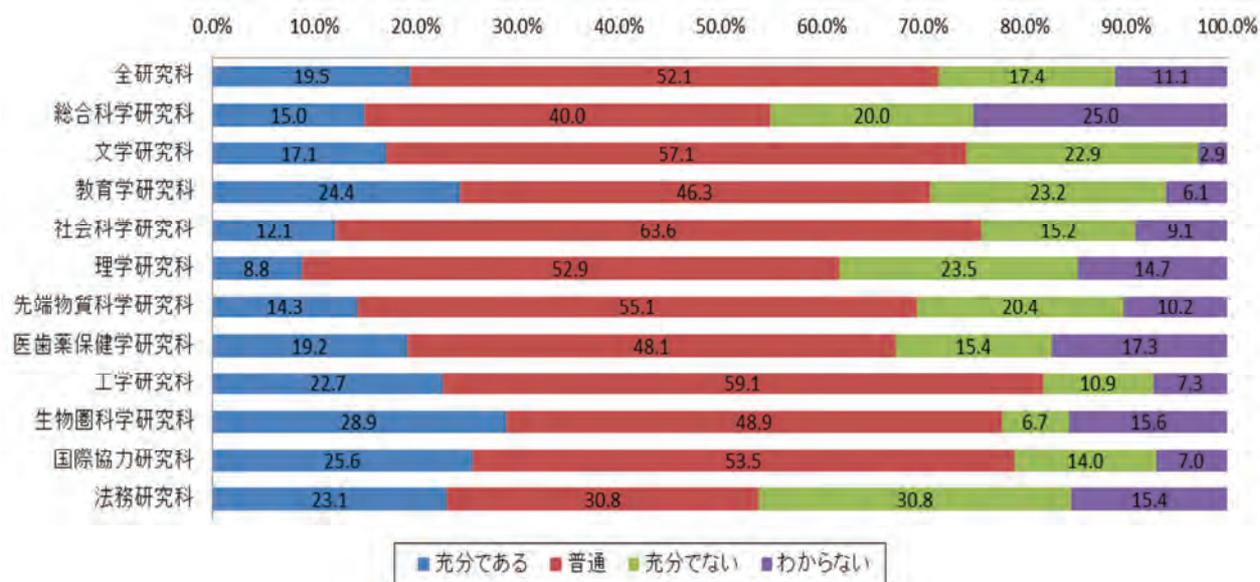
全研究科では「とても充実している」「やや充実している」併せて61.4%であり、前回調査56%からやや増加している。「あまり充実していない」「全く充実していない」は併せて11.1%である。総合科学研究科、社会学研究科で「あまり充実していない」がそれぞれ20%、18.2%である。また、法務研究科で「全く充実していない」が15.4%とやや高値である。



17 授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス

設問 31 授業以外の学生生活に関して、大学側のサポート（支援）体制やサービス内容・メニューは、全般的に見て充分だと思いますか。

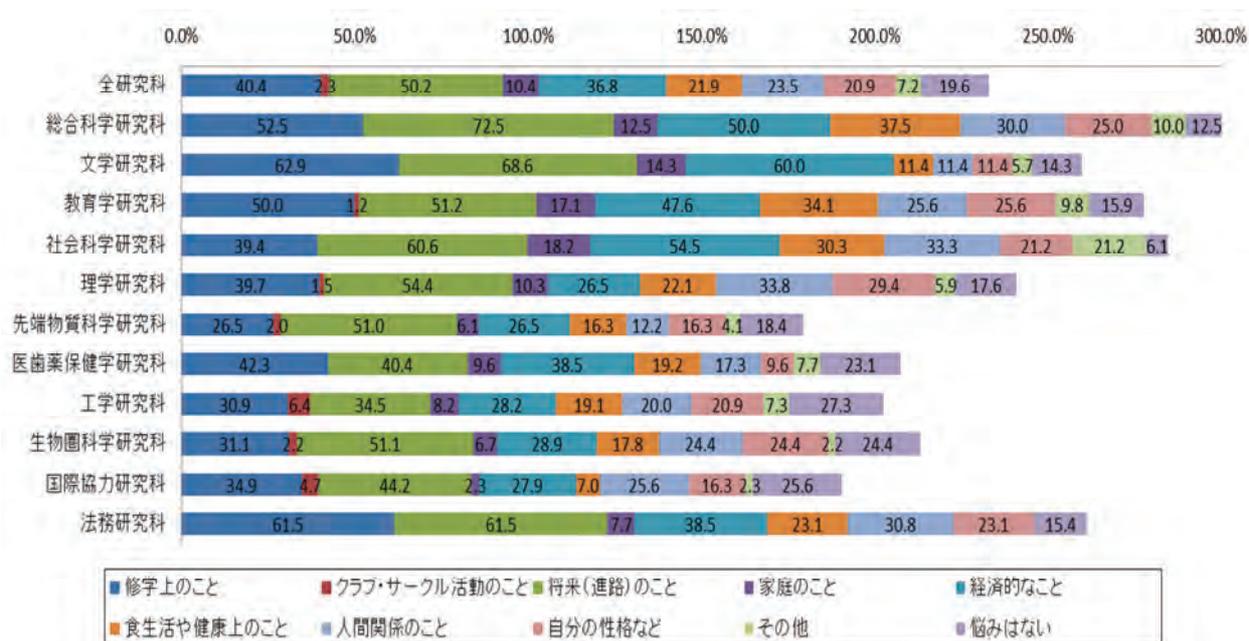
全研究科では「充分である」19.5%、「普通」52.1%、「充分でない」17.4%、「わからない」11.1%で前回調査と比べてさほど変化は見られないが、「充分でない」で高値を示す研究科も見られる。



18 学生生活の悩み

設問 32 学生生活の中で悩みがありますか。（複数回答可）

学生生活の中で感じている悩みの理由として、「将来（進路）のこと」と回答した者の割合が最も高く、50.2%であるが、前回調査では58.8%であるから、その割合は若干減少している。しかし、研究科によって34.5%～72.5%とばらつきがある。

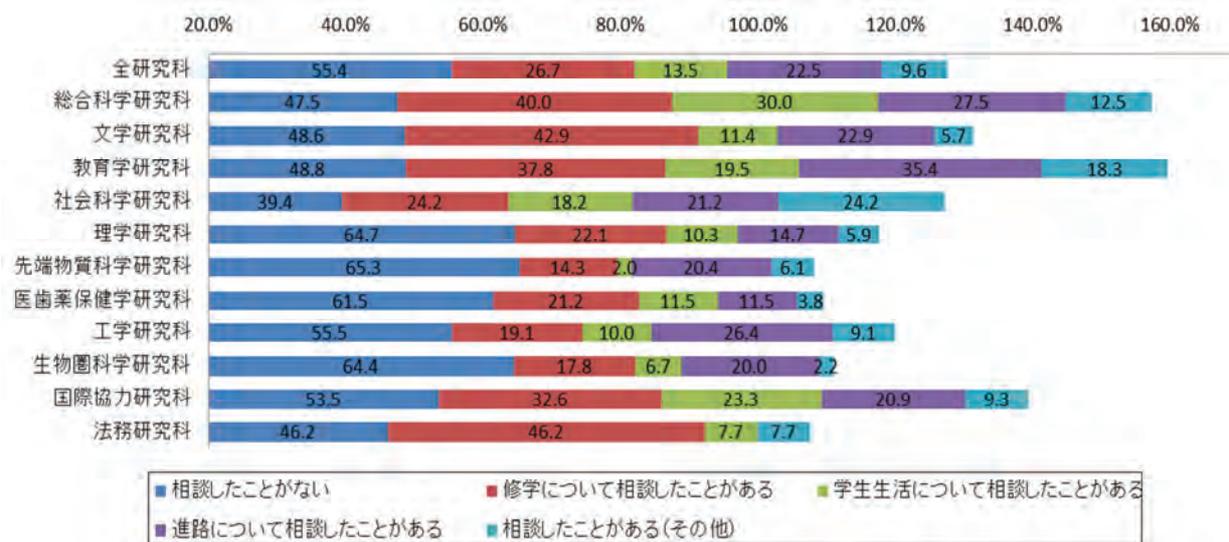


19 チューターへの相談と相談内容

設問 33 修学や学生生活に関して相談するチューター教員がありますが、チューターに相談したことがありますか。相談したことがある場合は、相談内容を選択してください。(複数回答可)

チューターに相談した経験がある者の割合は、全体で 44.6%であり、前回 41.6%に比べて若干増えている。相談内容で多いのは、進路と修学についてであり、前回と変わっていないが、学生生活についての相談経験がある者の割合が、前回 9.2%から、今回 13.5%と若干増えている。

※グラフの目盛りの最小値は 20%

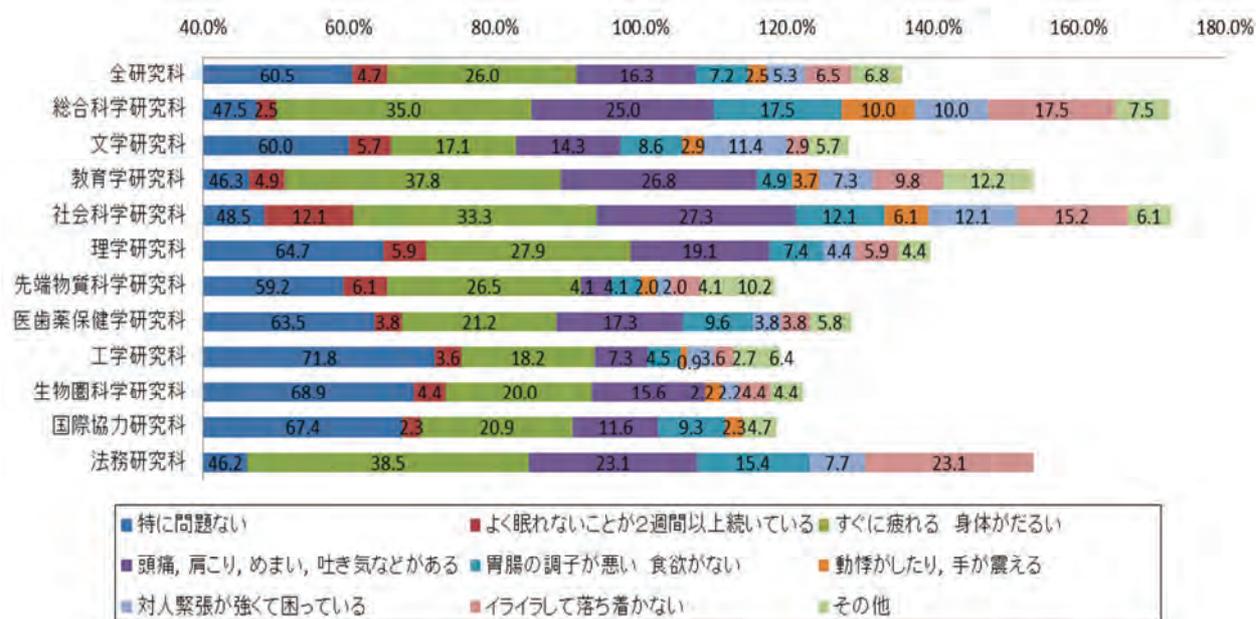


20 現在の健康状態

設問 34 現在の健康状態はどうか。(複数回答可)

現在の健康状態について、特に問題ないと回答した者の割合は、60.5%であり、前回と変わらない。不調として「すぐに疲れる・身体がだるい」と回答した者の割合が最も高く、26.0%であり、上位を占める不調は、「頭痛・肩こり等」16.3%、「胃腸の調子が悪い」7.2%、「イライラして落ち着かない」6.5%であった。前回と同様の傾向であるが、学部生と比較すると、どの項目もポイントが高くなっている。うつ状態の指標のひとつとなる「2週間以上の不眠がつづく」が、4.7%の割合であった。

※グラフの目盛りの最小値は 40%

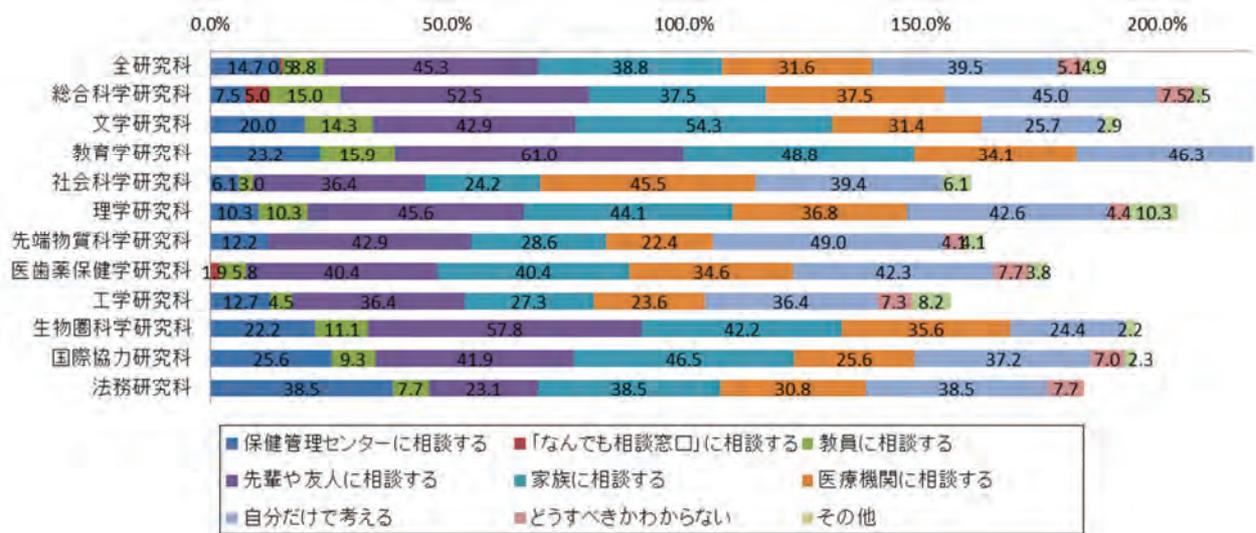


2 1 身体面・心理面の悩みの解消

設問 35 身体面、心理面で何か悩みが生じた場合には、 解消に向けてどうしますか。

(複数回答可)

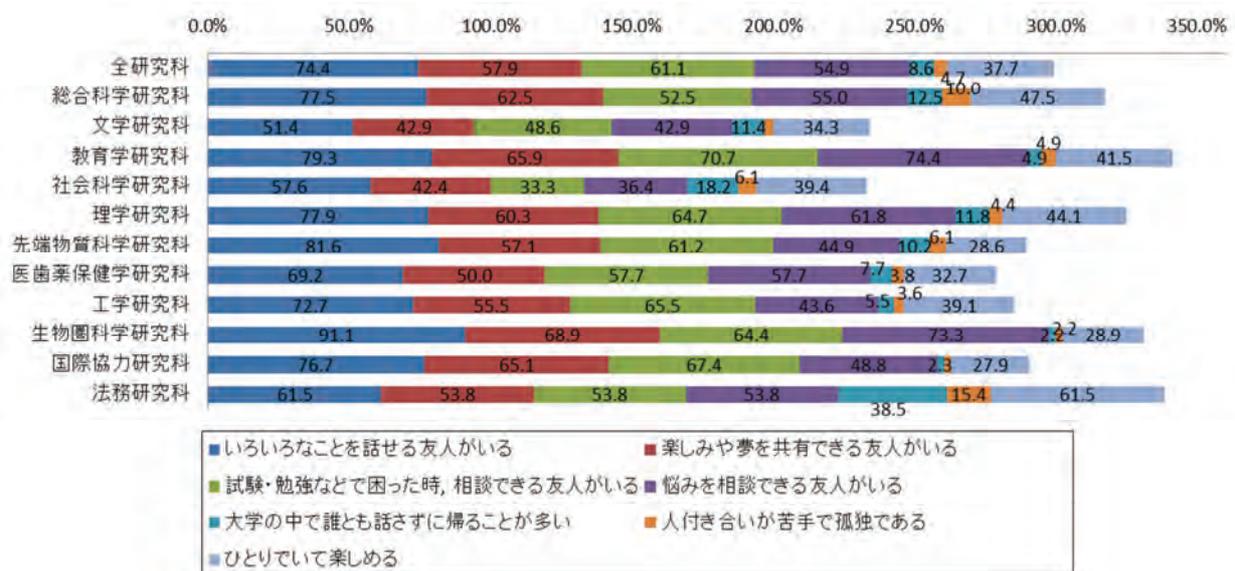
身体面・心理面で悩みが生じた場合に相談する相手として、「先輩や友人」と回答した者の割合が最も高く、45.3%であった。次に「家族」38.8%、「医療機関」31.6%、「保健管理センター」14.7%、「教員」8.8%であり、前回と同様の傾向であった。学部生と比較すると、相談の対象として、家族が減って、医療機関や保健管理センター、教員が増えている。「自分だけで考える」と回答した者の割合は、39.5%であり、前回 36.5%に比べて若干増えている。



2 2 友人との関係

設問 36 友人についてお尋ねします。(複数回答可)

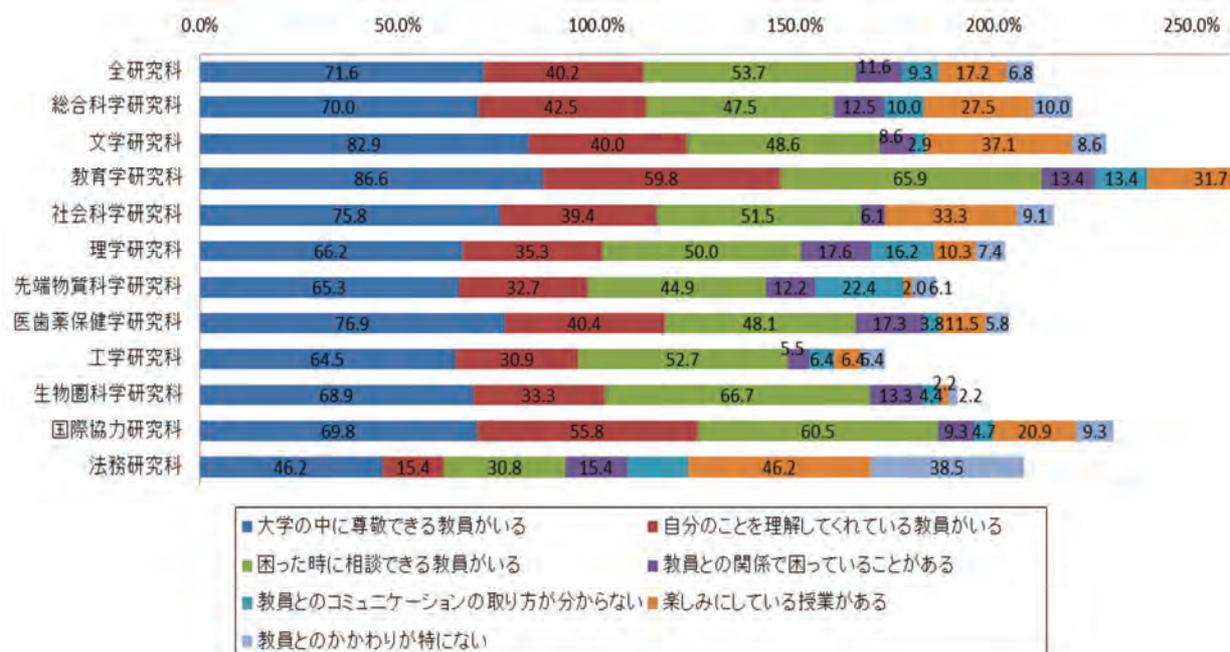
友人との関係について、「いろいろなことを話せる友人がいる」74.4%、「試験・勉強などで困ったとき相談できる友人がいる」61.1%、「楽しみや夢を共有できる友人がいる」57.9%、「悩みを相談できる友人がいる」54.9%であり、前回と同様の傾向であった。一方で、「大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い」8.6% (前回 6.8%)、「人付き合いが苦手で孤独である」4.7% (前回 3.9%) という結果であり、孤立傾向の者が若干増加している。



2.3 教員との関係

設問 37 教員についてお尋ねします。(複数回答可)

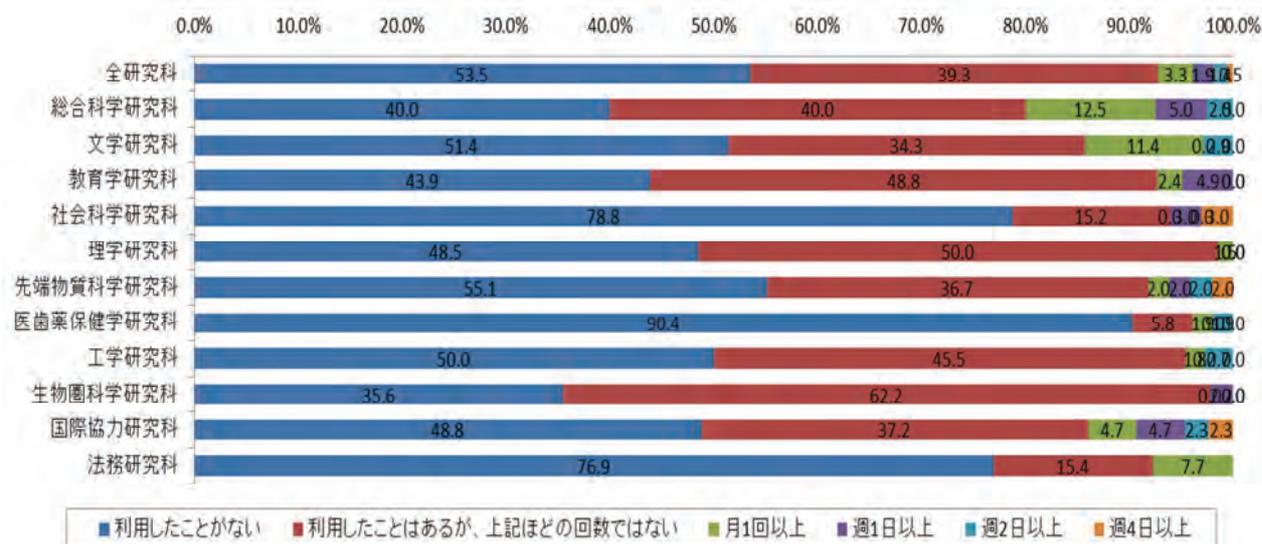
全研究科では「尊敬できる教員がいる」71.6%、「自分のことを理解してくれている教員がいる」40.2%、「困った時に相談できる教員がいる」53.7%であり、学部と比較して教員との緊密な関わりが伺える。一方で「楽しみにしている授業がある」は17.2%と低い。法務研究科では「教員との関わりが特にならない」が38.5%とやや高値である。



2.4 学生交流スペースの利用

設問 38 「学生プラザ1階のフリースペース」や西第1福利会館の集会室を利用したことがありますか。

学部生では「利用したことがない」が27.8%であったが、大学院生になると53.5%が「利用したことがない」と回答している。これは大学院生は研究室や自習室のように学生用スペースが確保されていることから、学部生のようにフリースペース等を利用する機会が少ないと考えられる。生物圏科学研究科では利用者の割合が最も高く64.4%が利用経験があった。総合科学研究科も利用者の割合が高いが、これは総合科学研究科は施設が近いためと考えられる。

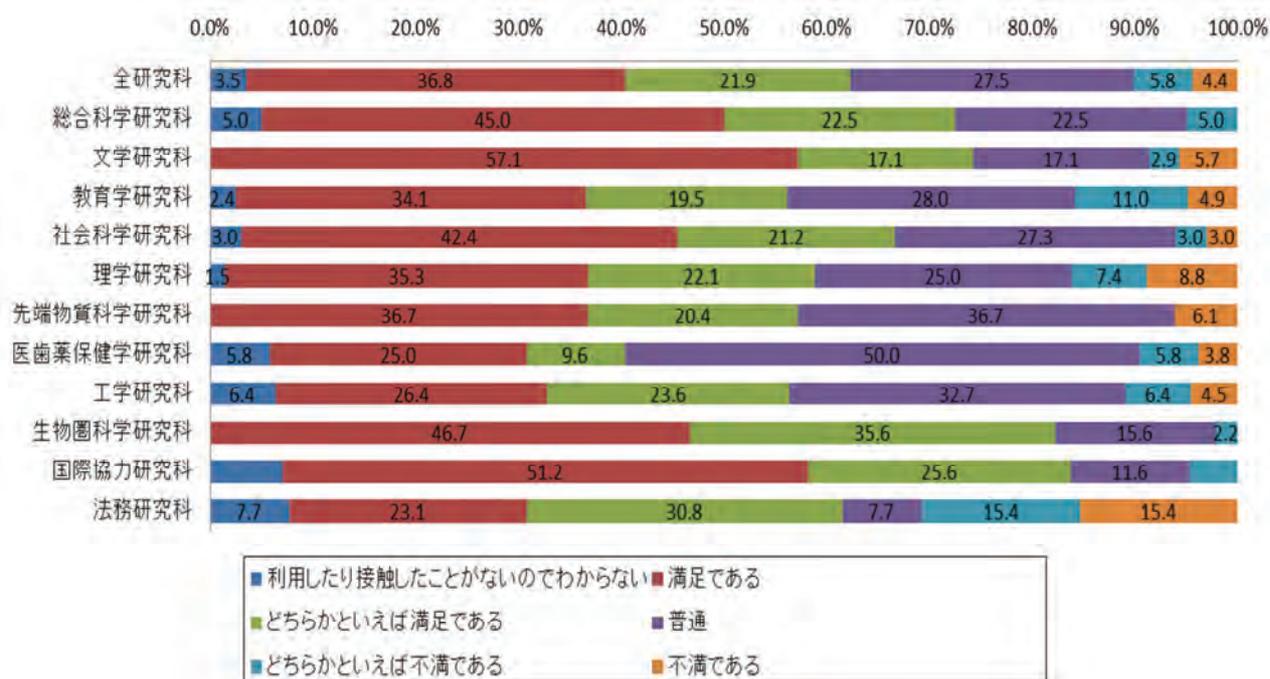


2.5 所属学部の学生支援室の対応

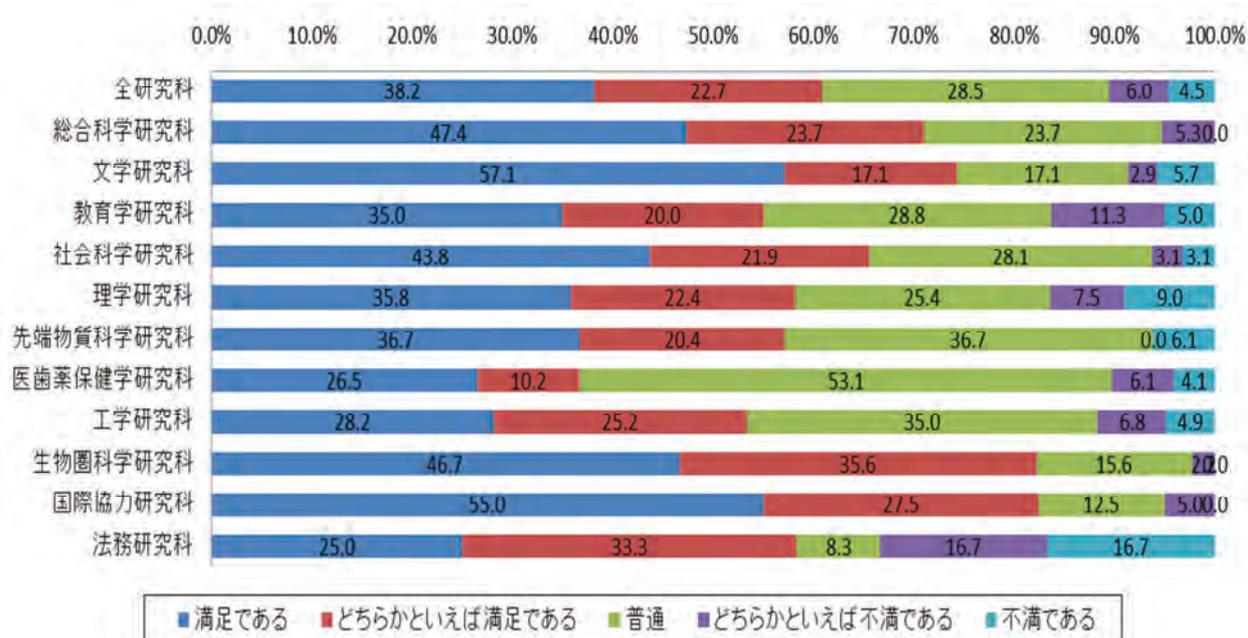
設問 39 所属学部・研究科の学生支援室の対応について、印象や満足度を教えてください。

学部生は「利用したことがない」と回答した割合が 11.7%であったが、大学院生では 3.5%が「利用したことがない」と回答している。また、利用したことがある者のうち 60.9%（グラフ 2）が「満足である」「どちらかといえば満足」と回答しており、大学院生は学部生よりも学生支援室を利用する割合が高く、満足度も高いことがわかる。「満足である」「どちらかといえば満足」と回答した割合（グラフ 2）が高いのは国際研究協力科（82.5%）、生物圏科学研究科（82.2%）、文学研究科（74.3%）であり、法務研究科は「不満である」「どちらかといえば不満」と回答した割合（グラフ 2）が 33.4%と高い結果となっている。これは前回調査と同様の傾向である。

【グラフ 1（利用したことがない者を含む）】



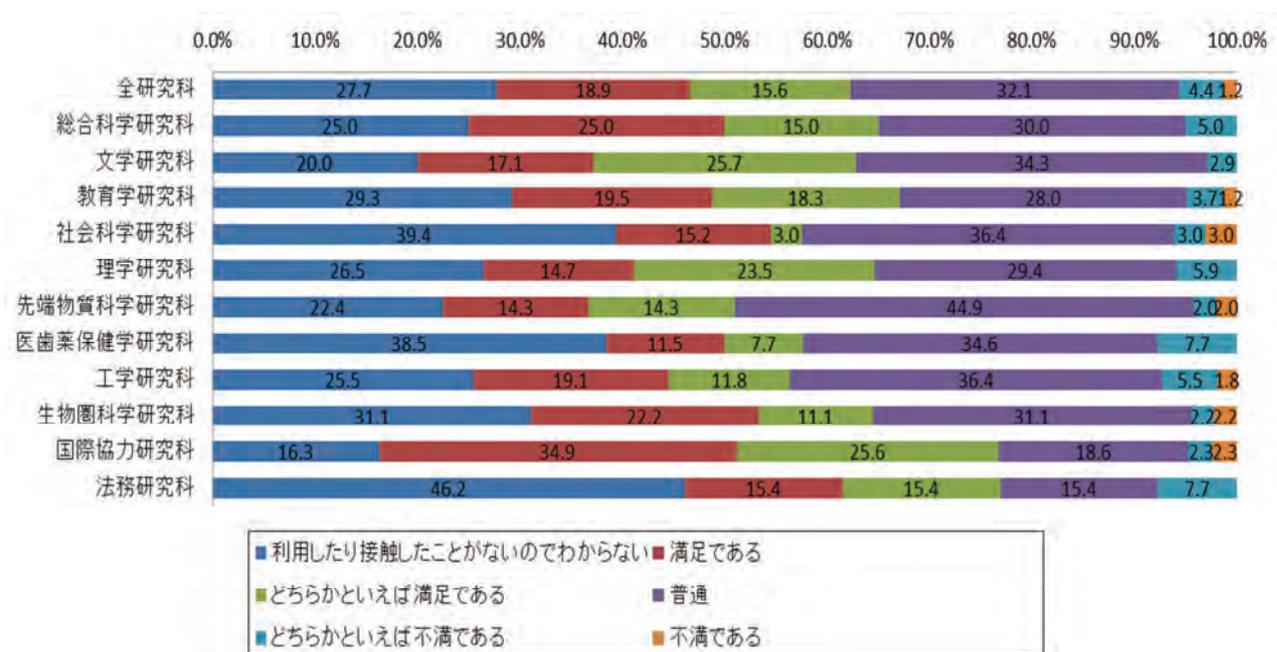
【グラフ 2（利用したことがある者のみ）】



26 学生プラザの学生支援部門の対応

設問 40 学生プラザの学生支援部門の対応について、印象や満足度を教えてください。

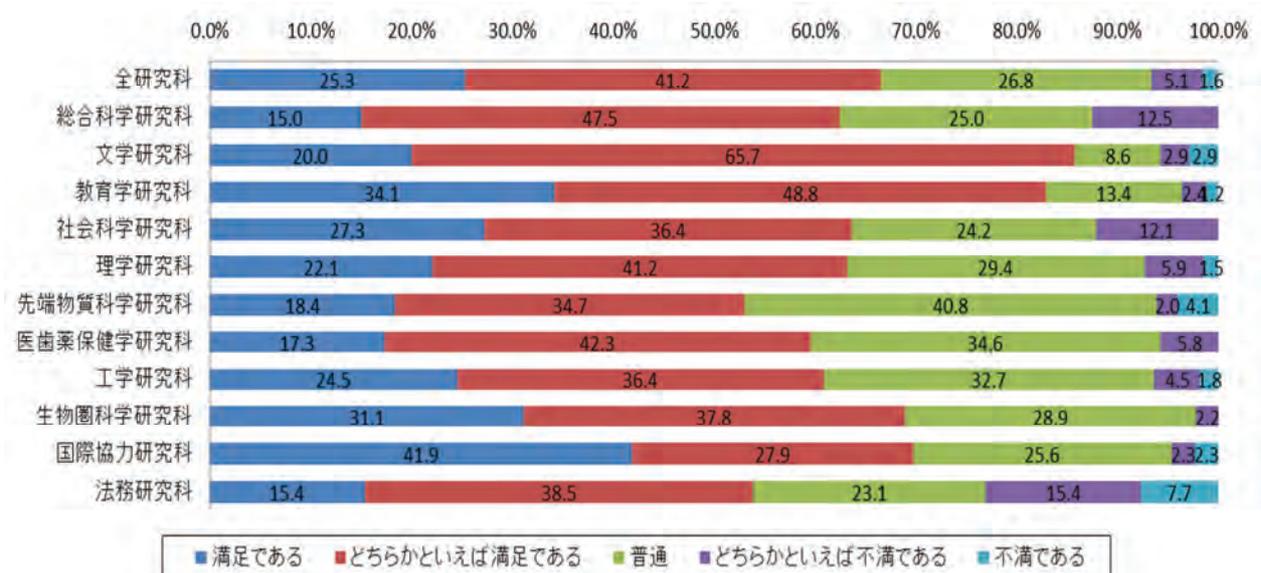
全体の 72.3%が学生プラザの学生支援部門を利用しており、前回調査より 6%程上昇しており、学部生よりも利用していることがわかる。また、「満足である」、「どちらかといえば満足」の割合は前回調査より 4%程上昇しており、「不満である」「どちらかといえば不満」と回答した割合は前回調査と同様の結果である。



27 本学の教育・学習、学生生活などの全体的な満足度

設問 41 本学での教育・学習、学生生活などに関して、全体として「良い」、「楽しい」と感じるなど、満足していますか。

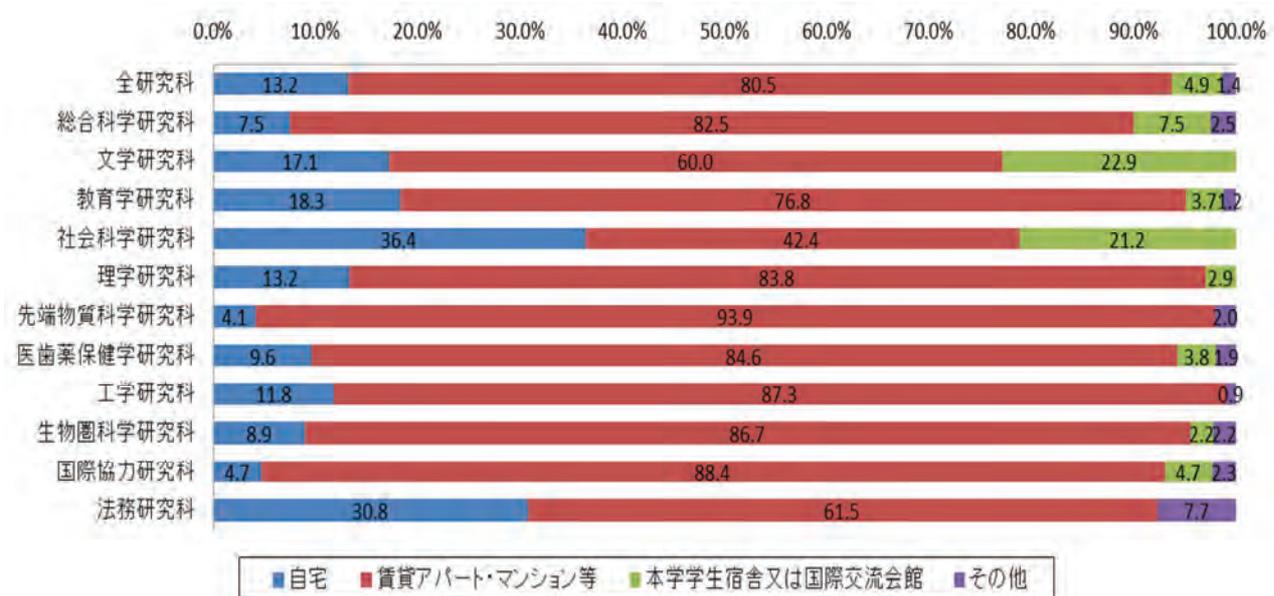
全研究科では「満足である」「どちらかといえば満足」66.5%で、前回調査59.8%からやや増加している。文学研究科、教育学研究科では80%を超えている。一方、法務研究科では「どちらかといえば不満である」「不満である」が併せて29.4%とやや高値である。



28 居住形態

設問 42 居住形態を教えてください。

社会学研究科，法務研究科では「自宅」が30%を超えているが，他研究科では「賃貸アパート・マンション等」が80%を超えている。



29 通学方法

設問 43 通学方法を教えてください。(複数回答可)

全研究科では「徒歩」34.7%，「自転車」58.4%，次いで「自動車」26.1%，「原付・バイク」17%となっている。学部と比べて「自動車」の利用が高値である。その他，「JR」，「バス」，「広電電車」の利用も行われている。

